

唐土訓蒙圖彙卷之十三

名下子
和名と附

禽獸

此羽よい山川林地水原の畜すべし
とりてその乃とて 殊に...

鸞鳥

此系多し國語に周のおとろ時り
岐山よなりといへ李



世樂鳥

南方より出つて五色あり
丹蒙赤首に冠あり王者明德あり
天下太平なり時ありわづらふ



秦吉了

形勢よく
似くま自
頂の毛
あつて人乃
髪のとく
かこく
乃多の兒
女のくく秦
吉了の丈夫
乃くく
又一種あり
そくく
肉冠を
人の形に
目とあつて
英文あり
嘴をく
せりり



鷓鴣

一名鉄鷓
鷓鴣の形
より小は
くくを
遊人
三月
かく農人
以て候



海東青

此鳥
お麗より
物とつし
かて
と旋凡の
は
の性あり
名とつし
鷹隼。鶴の事
別家国景あり
故そ



井蒺鳥

くく
歌
小
いれ
言語
い
交趾
い



鵟

此鳥
性
凡
く
と
の
は
と
を
引
と



唐土前代... 卷十三

唐土前代... 卷十三

大里才

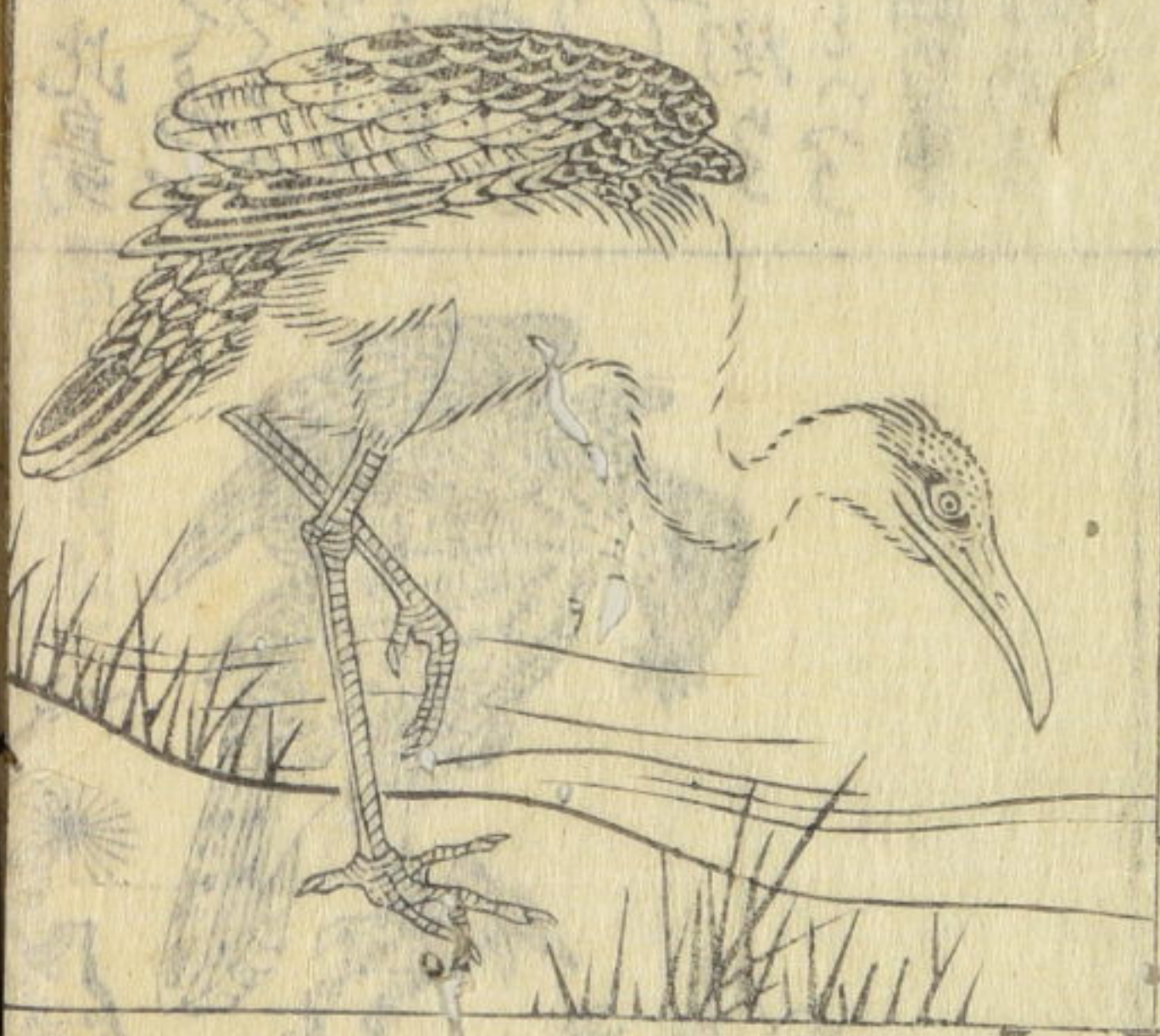
秋鳥

丁名扶老
鶴の廣さ
翼の廣さ
五六尺と
わねの六七
尺長頸赤
目尻頂上
皆毛なし
足凡六鶏の
しく色をこ



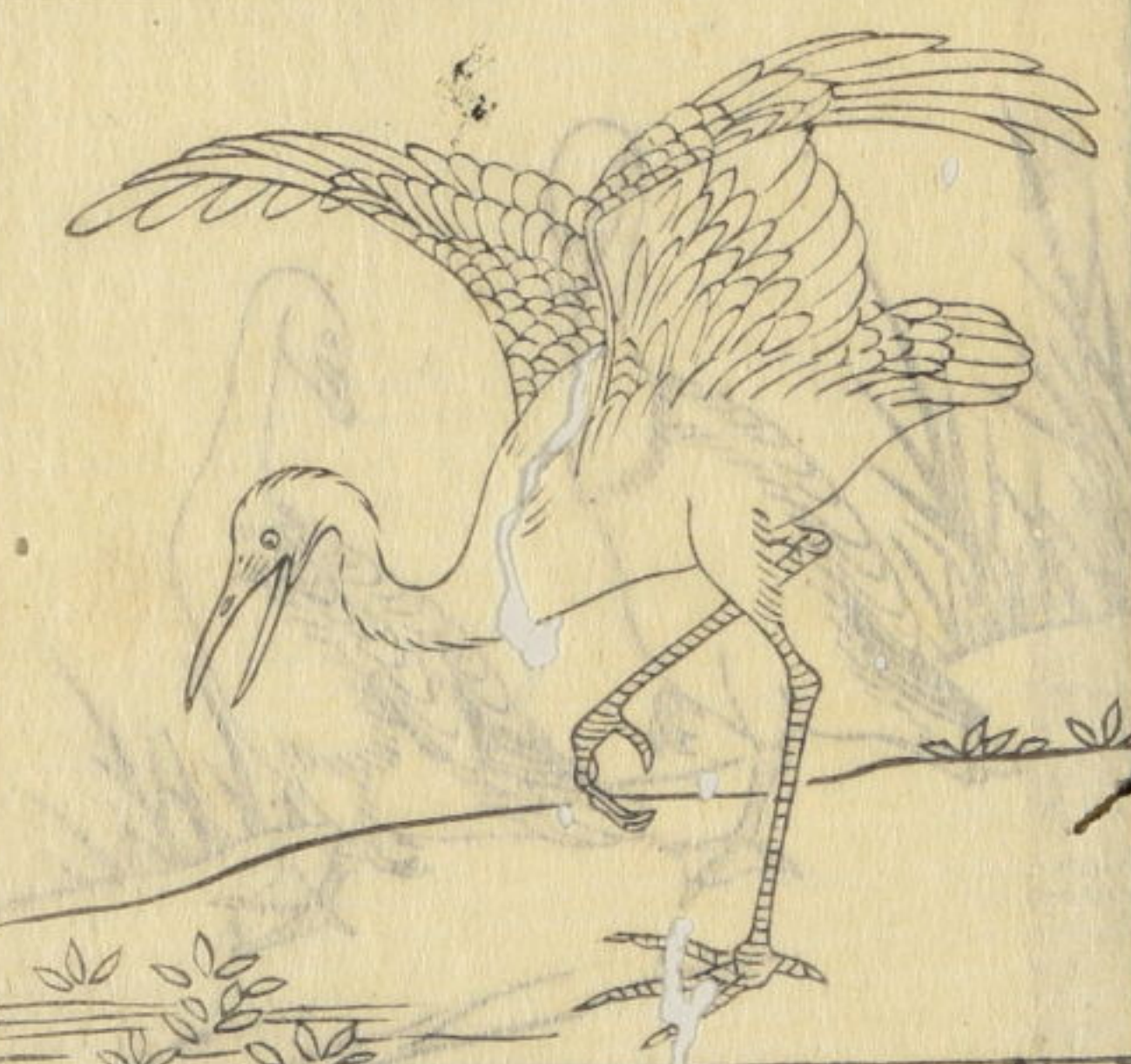
駮腫

水禽大さ
孔雀のく嘴
長尺餘は
口勾り素冠
のく二條
條と入る
酒器と化
ゆとる
木葉と冷
糞蕪陸
香し似る



昆鷄

鶴より似て
其白色
領長く喙
赤く九辨
啞嘶
悲鳴
鳴



鶉鷓

鳥の類
吳中
田
生



乾雞

項金色
嘴切を形
邊に影と
其色ハ
の三月
三日あり
去て九月
九月あり
群あり



陽鳥

鶴より似
殊小
身黒く
頸長
七



玄鶴

その色
音の至
わは至
帝樂を
崑崙山
不
の鶴
春へり



旋目

大さ
如く尾
みか
お白
深月
月の
毛を
選上
賦
の



カ目

水鳥類
白く自肉冠
あり足の指
鴉に似く
ひろく足
をまき
いり大
小あり

艾君鴉

善高く飛
て居く
そ色艾君白
なり目相
較て孕む
吐て子を
うむ

鴉鳥

鴉鳥
白く人
て白く
とく
然る
風
首
目

鴉

鳥に似て後
指か
文あり
鳥に
激
を御



白鴉

鴉の類
その色白
形ハ
つら
りい
る

屬王

水鳥鴨
長頸赤目
紫紺
鶺鴒
觀

鶺鴒

鶺鴒
名鶺鴒
似く大
似く大
似く大
似く大

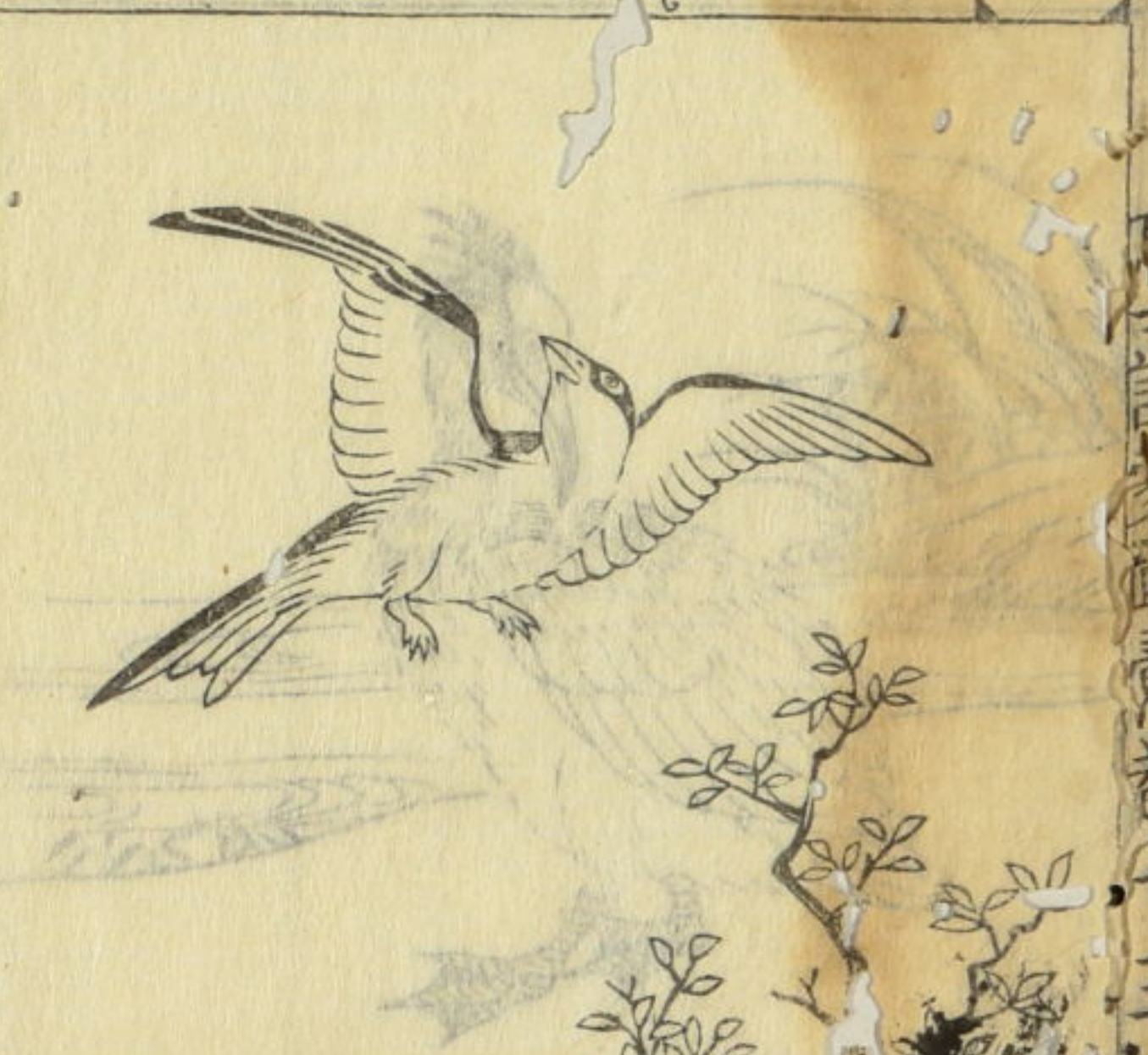
信天翁

狀鴉に似く
喙長
際
魚



鷺鷥

水鳥、肩乃
屬長頸、綠
色、形、厚
似、其羽、
一種、狀、
足、短、指
前、似、
非、羽、
平、



非羽平

形、魚、狗
似、大、
水、色、
居、魚、
或、冠、
灰、
御、
或、
後、



蒿雀

麻、雀、
似、
黒、色、
高、
間、在、
故、
食、
美、



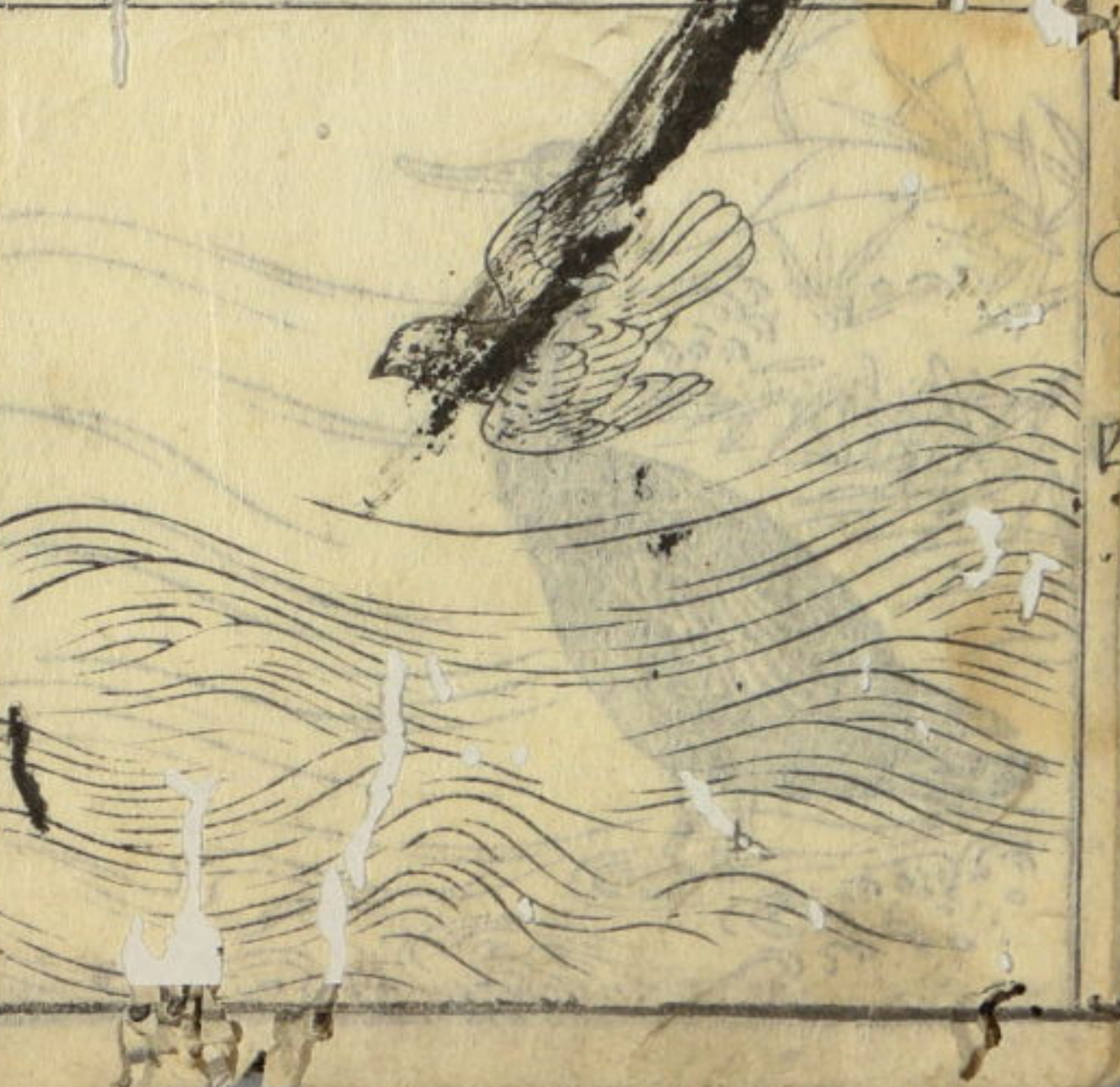
尖厥雀

大、
形、
後、
尾、
好、



金鳥

昆明、
川、
加、
魏、
の、
時、
常、



鷓鴣

形、
似、
好、
葦、
の、
皮、
同、



黃鳥

形、
尾、
相、
尖、
日、
う、
わ、



繡眼兒

形、
月、
わ、
之、
あ、
さ、



半虫

冠背毛黄
鮮明脊腹
洞赤雉子
の羽は
先十二章
又五が物



鷓鴣

雉類七
大上黒色
首毛角を
冠のや
性堂を
おしと
すふて死
といふ



鷓鴣

鳳は似く
神鳥なり
郁離子曰
南方神鳥
なり五彩
の飛と
かん



鷓鴣

鷓鴣は似く
不祥の鳥
を魚と
かた状小
うて雉
のしく体
入ルニ北越ニ
入ルサケニ



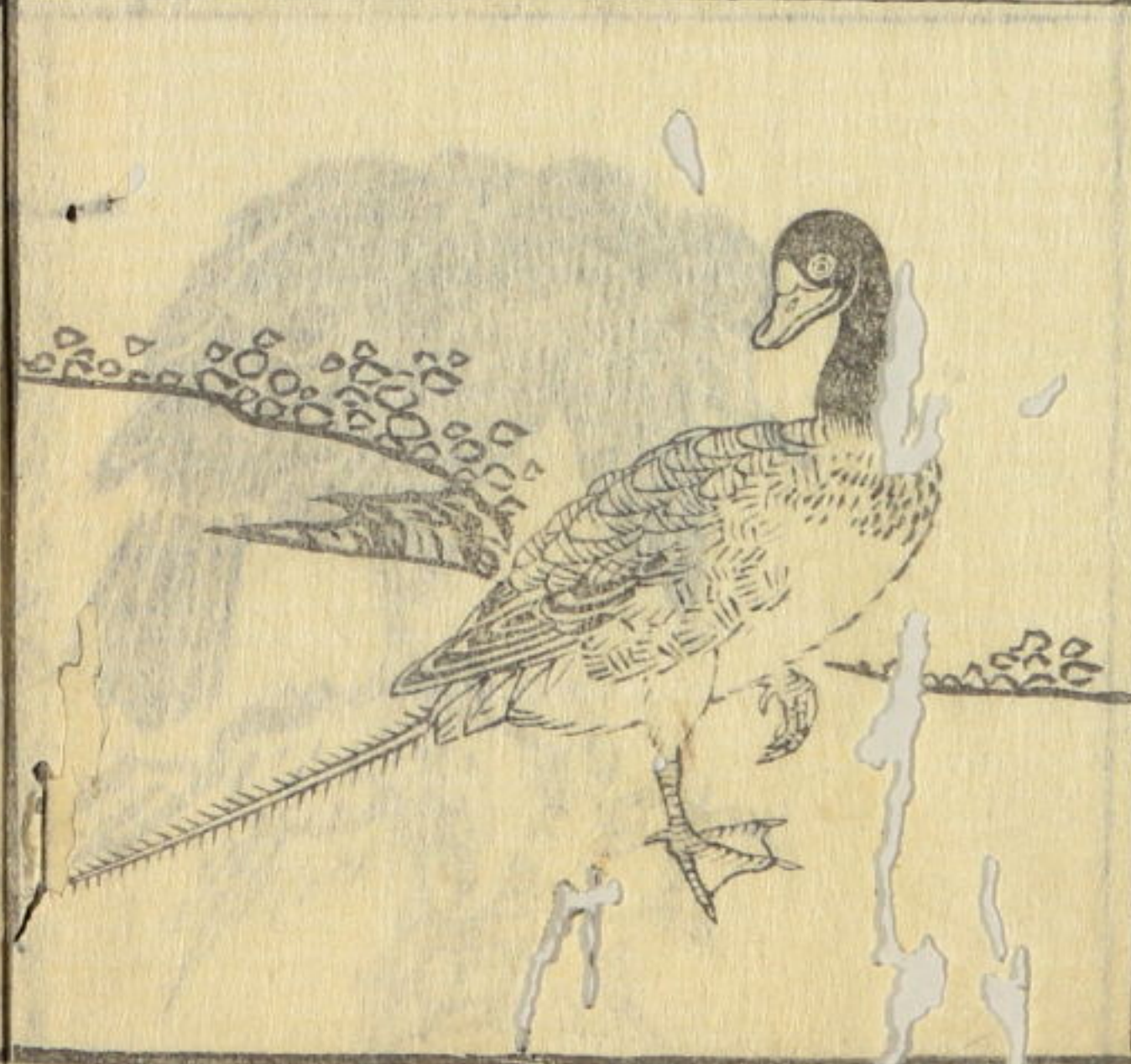
當尾

そのこち
紺子の如
うて尾ハ
芭蕉に似
たり人食
る



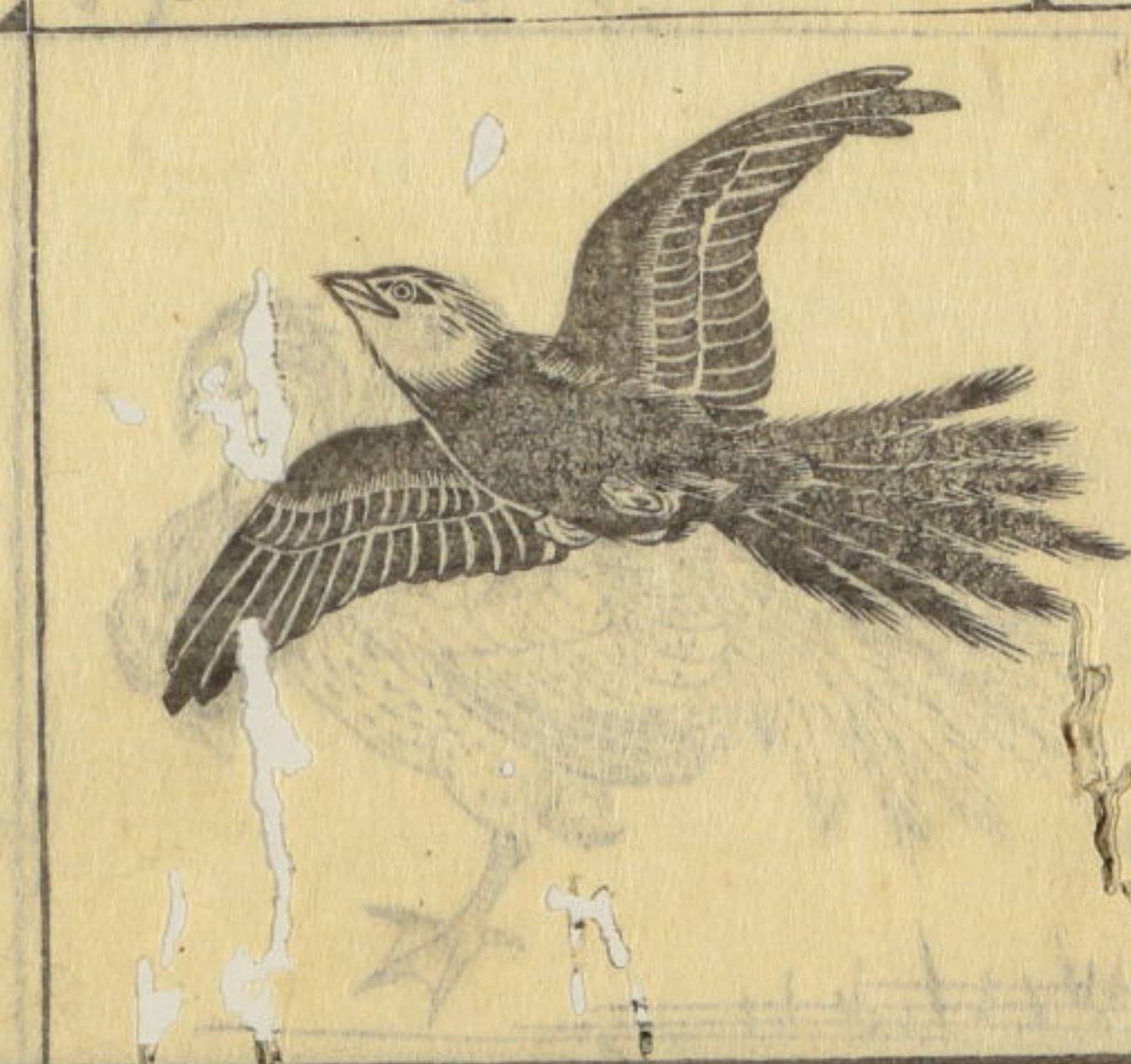
潔釣

そのこち
鳥のこち
尾ハ亂り
似たり
本



精衛

神農の女
女娃と名
は昔海
に遊死
一化七粒
に西山の石
と收く東海
と填るといふ



立月

そのこち
白冢自首白
尾ハ七度と
御承へし
鳴るといふ



窓日永して讀耕^{くわくこう}の徒^た書冊^{しよふく}を物^{もの}して宰^{サイ}予^ヨと學^{まな}ん
 とら^{とら}忽^{たち}ら^ら窓^{まど}あり^{あり}桑^{さん}樞^{すう}と啓^{けい}て入^いる寒^{かん}暄^{けん}畢^ひて後^ご札^{さつ}上の^の冊^{ふく}
 稿^{こう}と標^{ひょう}て閱^{えん}る禽^{きん}部^ぶの^の冊^{ふく}と掩^{おん}て嘆^{たん}し且^{かつ}怪^{かい}て日^ひ
 今^{いま}此^{こゝ}圖^ずの^の如^{ごと}ふ^ふの^の冊^{ふく}あり^{あり}未^{いま}圖^ずを^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く
 多^{おほ}く^くの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^くの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 王^{わう}城^{じやう}探^{たん}て圖^ずの^の今^{いま}あ^ある^るの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 將^{しやう}疑^ぎしよと闕^{くわつ}ら清^{せい}く其^{その}後^ごと圖^ずの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 曰^いわ^わる^る何^{なに}必^{かなら}ず大^{だい}鵬^{ほう}と^との^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 して聖^{せい}代^{だい}よ出^いて^て岐^き山^{さん}よ^よなく^く磔^{さつ}言^{げん}人^{にん}中^{ちゆう}の^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 大^{だい}鵬^{ほう}の^の禽^{きん}中^{ちゆう}の^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 中^{ちゆう}は^は老^{らう}と^との^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 屏^{びん}の^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 とも^{とも}と^との^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 是^{こゝ}も^も亦^{また}格^{かく}物^{ぶつ}窮^{きゆう}理^りの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 圖^ずの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く
 ち^ちの^の冊^{ふく}を^をあ^ある^るもの^{もの}多^{おほ}く^く

鹿

鹿の類赤目五蹄仁と合義



白澤

東望山は沢 獸あり能言語 王者徳幽遠と 照見時至る 昔帝巡狩 東海に到る時 此獸言語



龍馬

馬八尺の龍を昔伏羲の時に



果然

仁獸也後より 木より体言 尾より鼻孔 天より面方 附木上は角 尾より鼻とふ 柔は白黒文 天子衣を 二年のあを 宗彙これ



金猊

飛獅の如く
その世に
香炉の蓋
乃上りまつ
世に獅子の
香炉と云ふ
わきまあり
猊なり



類

状ハ釋の
髪あり
北社と云
是と云ら
へんま
右ま



擣杓

獸の至て
好者ハ爾
と好ん死
云々状ハ
虎の毛
の長三尺八
尺人食
八尺人食



龜

虎の属
立秋の目
獸と云ふ
柳文曰龜
ハ虎と云
虎ハ龜を
畏ると云
と云ふ



三角獸

西凸山
三角獸
すれし
瑞獸なり
先王法度
脩明なる
時ハ



角端獸

東山
獸ハ瑞物
やう六合天
下曰く太
平なれし
わくろえ
の肉ハ



豹

豹の類
猛獸ハ
國ハ公侯詩
經曰獸其
皮陸機曰
豹ハ虎ハ
或ハ熊ハ
ハ



赤豹

眷山
虎ハ似て
赤ハ毛詩
宣王の詩
赤豹黃
羅



唐土訓考卷之四十一

海豹

その名を豹
の如く勇に
五尺許の文
わりの水涯
にありたり
わらふつゆの
動と一若
ちし一若
時ハ水今
和名ヲカラシ



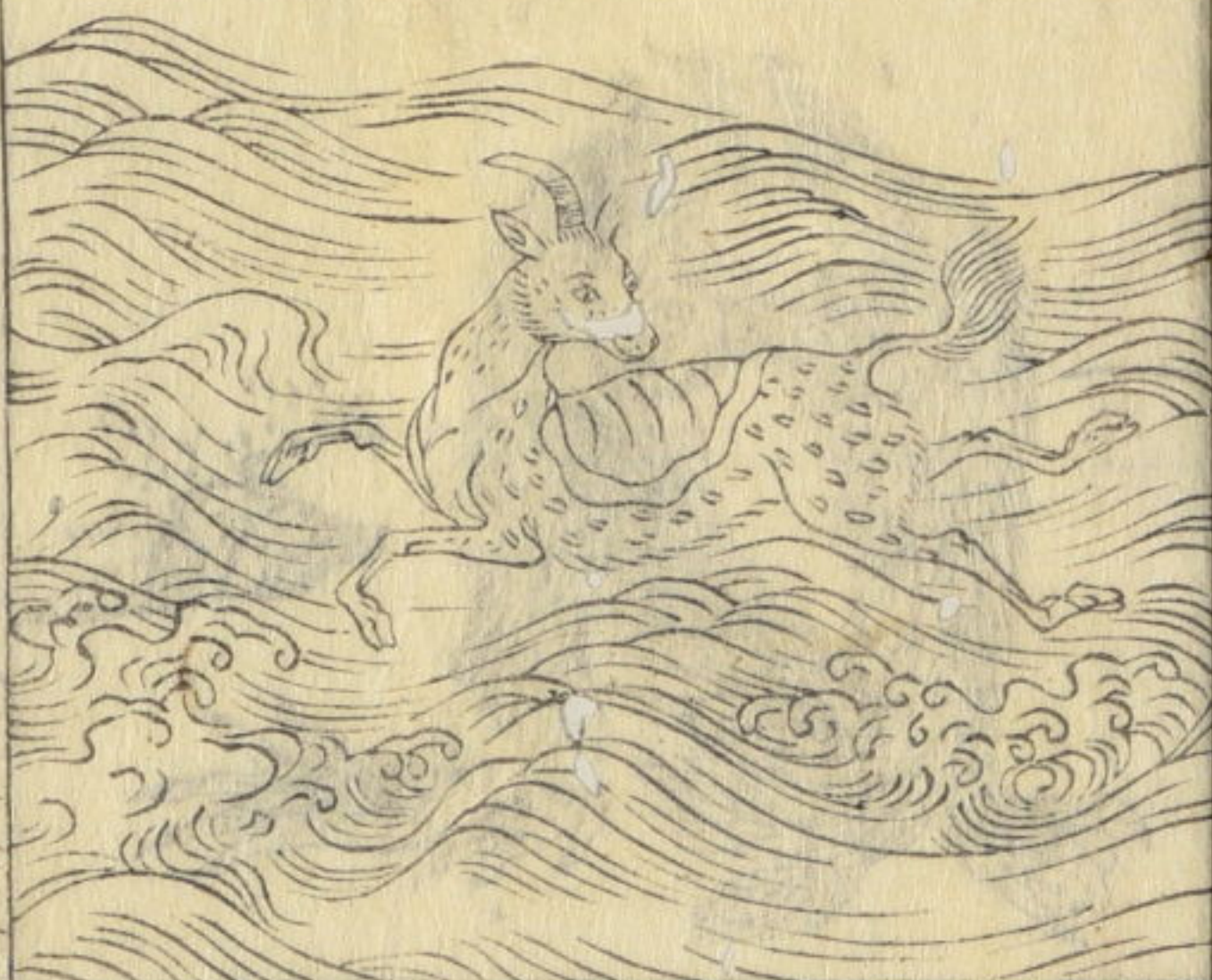
海牛

その長さ
丈餘あり
紫を以て
角か
是ハ水の
やく尾の點
乃ハ一人
とこれハ
海に入



水犀

犀に較後
山犀ハ三角
水犀ハ二角
一角少テ靈
ありハ通天
通天多ク者ハ
とつとて教
とみとて子
ニ濁水とカ
ミテ此ハ一
今圖すハ一
角ありて珠
甲あり水犀



兕

禱過山に多
一狀野牛の
色一
角長三尺餘
馬鞍に似
身の重十斤
其皮厚く
漚と制



羆

狀牛の如く
角を以て
其帝を以て
其骨と櫛
を以て
なる百里



鬻鐵

その狀水
牛の如く
其鬻鐵を
合ハ水と飲
糞と兵と
鬻鐵と
鬻鐵と



羴牛

西南夷の長
毛牛ハ牛に
似て四蹄腹下
及ハ肘皆赤
毛の長尺餘
ありハ尾と
其大斗乃
天子の
車蓋あり
以尾と以て
此ハ



牦牛

狀水牛の如
体も多力
其骨と櫛
を以て
なる百里
其皮厚く
其鬻鐵を
合ハ水と飲
糞と兵と
鬻鐵と



熊の白

狀熊白似
白皮あり
顔は七
脚は短
生猛
加人の
て

害に

獲

色黒
能人と獲
持は長七尺
人の
て健
或は後又百
歳かり
云

野干

狀本推
新し頭
正の方
人
髪の名尺
俗常
面と
り
いらく

獨

形猿
て大
よく後
とら
得
後
し
う
獨

白



熊

狀猿
牙
好
又
す
せ
け

獺

後の属
馬
腰
の
毛
白
握
捷
力

蒙

狀ハ雅
小
み
交
趾
氣
猫
ま

魁

狀三歳の
小兒の
赤黒色目
赤く身長
く
川澤
神



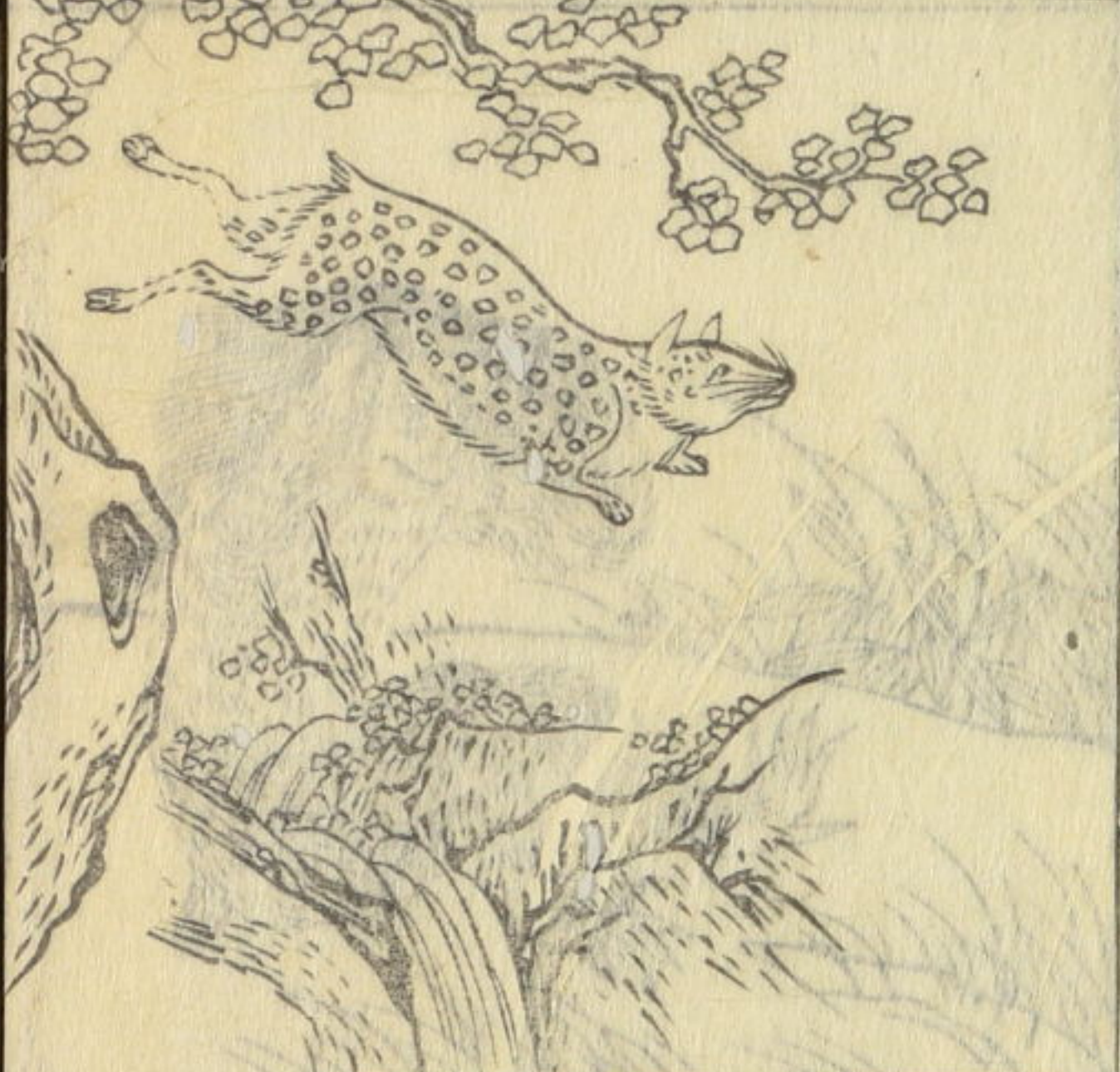
赤狸

西海の外
周の天子の
姜里の囚
散宜生を
と獄に入
逐て西伯
の難と
まねる



風狸

風狸は
のしくまを
高き尾を
一葉伏て
樹より身
うつりし
風のそよ
るつりま
れと居る
人定中一
個



天狗

陰山は歌
あり状狸
のふく白首
蛇と合ふ
其音猫の
聲と合ふ
佩也と合
と御へ



新

胡大は狐
似し小
思くも
新は故
干は意
君は皮
水は
さる



赤黄

西海の外
民國あり
自身髪と
被り状狐
のふく其
上は角あり
これ象
壽二千歳



玄新

法新あり
穆天子は
と得て河
すつ周礼
と新あり
死に此地
といふ



校

玉ふは歌
犬の状
新の文牛
乃角あり
犬の多
は目あり
あつて
天は



黒狐

北山は
あり神
王者能
平と致
は獸わ
四夷来
周の成
時いつ



天馬

馬成山子
獸あり狀
白犬の如
ありて頭
黒し一
人とも教
とれ心飛
び獸とや
とれハ
豊穰之



猛狗

南山子獸
熊子似て毛
彩光澤
あり
こ倉
銅法
とれ



獲犬

天門山子
あり天物の
流注ん生に
生すおね
十とれ
風のこく
好雷の響
光電のほ
びり深
一ハ



諸捷

單張山に
あり狀豹
のめありて
尾長
鼻牛の如
目直し
とれ尾と
くは
何ハ



矮爬狗

番國
いけ
二似て
く身あり
尾ま
長人
一名拂
馬鈴
哈叭
とれ



木狗

形物の如
ありて
くま
のわ
皮と
も志
とれ
氣血
とれ



當庚

飲山中
獸あり狀
豚乃
其鳴
自ら
之ハ
天下
獲
とれ



義

狀ハ
白首
なり
とれ
とれ
とれ



猛棍

譙明の山
は獸あり
狀顔
赤
毫あり
鼯鼠を



鹿蜀

相陽の獸
あり狀馬の
白首
虎文あり
尾赤く珍
人此皮は
移り子



旄馬

南海の外
あり狀馬
の如く
鬃あり
色あり



果下馬

此は海馬
三人行り
極小
のり
果
トサゴ



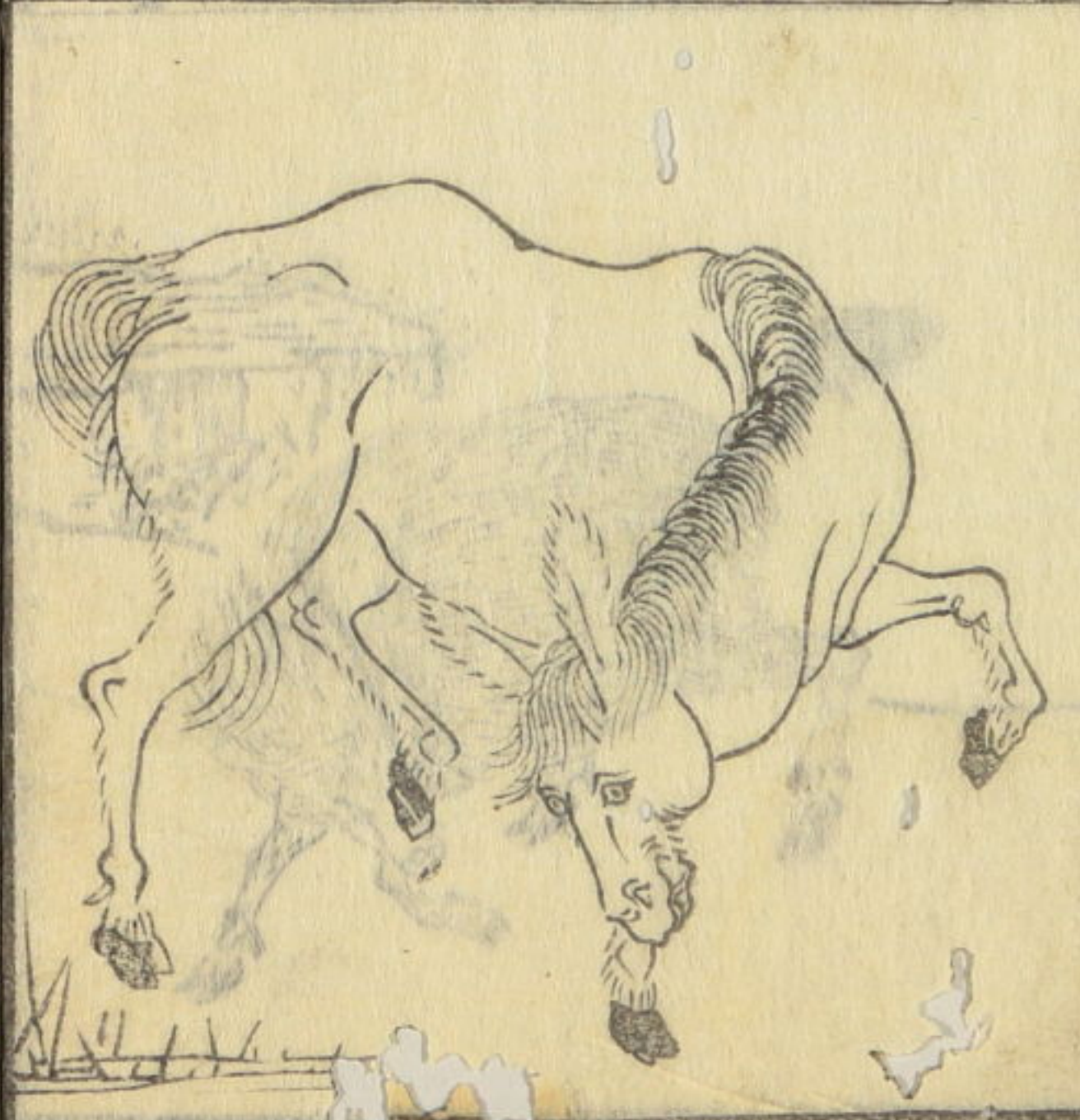
腫疎

獸あり狀
馬首
あり
石
錯



駮

駮
馬
舊
乃奇



山驢

強
角
の
位
や



海驢

狀野の如
秋
の
皮
て
和名トド



羴

西方の野
羊壯驪の如
其角甚大
夏の時塵
落その角上
よみて草と
生じてこれを
食とせしむ
先とせしむ

封羊

形ハ羊ノ
角ハ有
肉ハ少
絶此也
故羊ノ
死

葱聾

符遇山
よりこの
ありら
羊一々
鬣
首
く

一封駝

形ハ駝
ノ脊上
又肉ハ
おころ
一封
と俗
牛と



羴羊圖

羴羊

羴羊ノ
角ハ有
肉ハ少
絶此也
故羊ノ
死

羴

句山ノ獸
わら状羊
の如く
其性
野
殺

野

南丹乃出
黄髮裸尻
野
ト方寸の
卵あり
蒼玉の
文ハ
武夫
ありて
これと
なり



山

西方深山
人ハ
長丈
裸
力
能
捕
人
ハ
能
食
之
和
之
と
こ
を



唐土訓蒙圖彙卷之十四

名下
和石と瑞

魚介蟲

魚介蟲のそと乃あはるりれ

蜃

その形蛇に似て大角ありて其の狀のしく鬚ありて海に下鱗のしく逆ふよしく氣を呼ばし海市と云ふのしくとあるは是と蜃樹又海市と云ふ

應龍

恭丘山下

意龍あり

翼あり

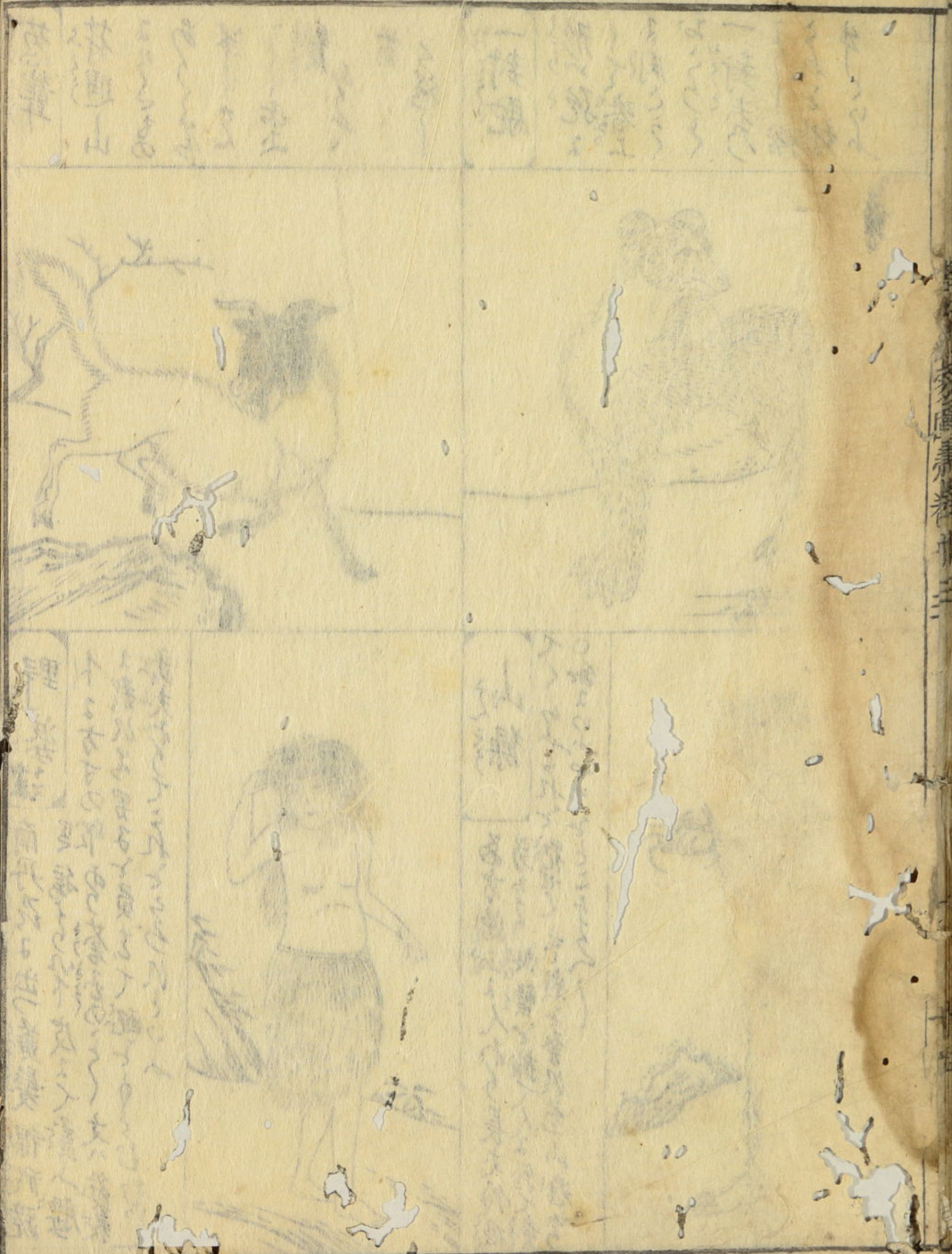
龍や

黄龍

龍の野

御

り



龍

狀字之大小
如ふして大
一二丈五色
背尾皆鱗
甲わりよく
旁とらぬ
といふも
夜更に應に

鹽龍

その長尺
餘あり難
浪盤と云
乃盃を呑
むの如え
塩と解り
ふつと結
なりと塩と
いふと



半牛

龍の類なり
甲壳は似
て但其角
湾其角
三干
鱗類
陰雨に雲
を務

肥鱧

陽山の神
女身六足
四翼あら
其国大
早にむ
湯の所



騰蛇

物の類なり
雄の凡上
多に雌と
風下につけ
んとくす
子日騰蛇遊霧
飛蛇乘雲雲能
霧除與班同
失其所乘故也



蚺蛇

その形大
して毛
鹿山馬
とのひめ
錦織の
雷加の人
膽とめて
責ん



斫木蛇

い蛇
樹上を
人と
跳て
又樹
て
人の哭
とす
たさ搗衣
の



青蛇

屏山
蛇あり大山
の高
高百餘丈
日野獸
と捉



鯢ニギハヤヒ

形難カタシり
色白
一尾の
尾の
から
は湖
多



石斑魚イシハマナギ

状白鱗
黒斑
虎の
尾蛇と
交つ此魚
水面より
人の身を
固く泥を
よく入る



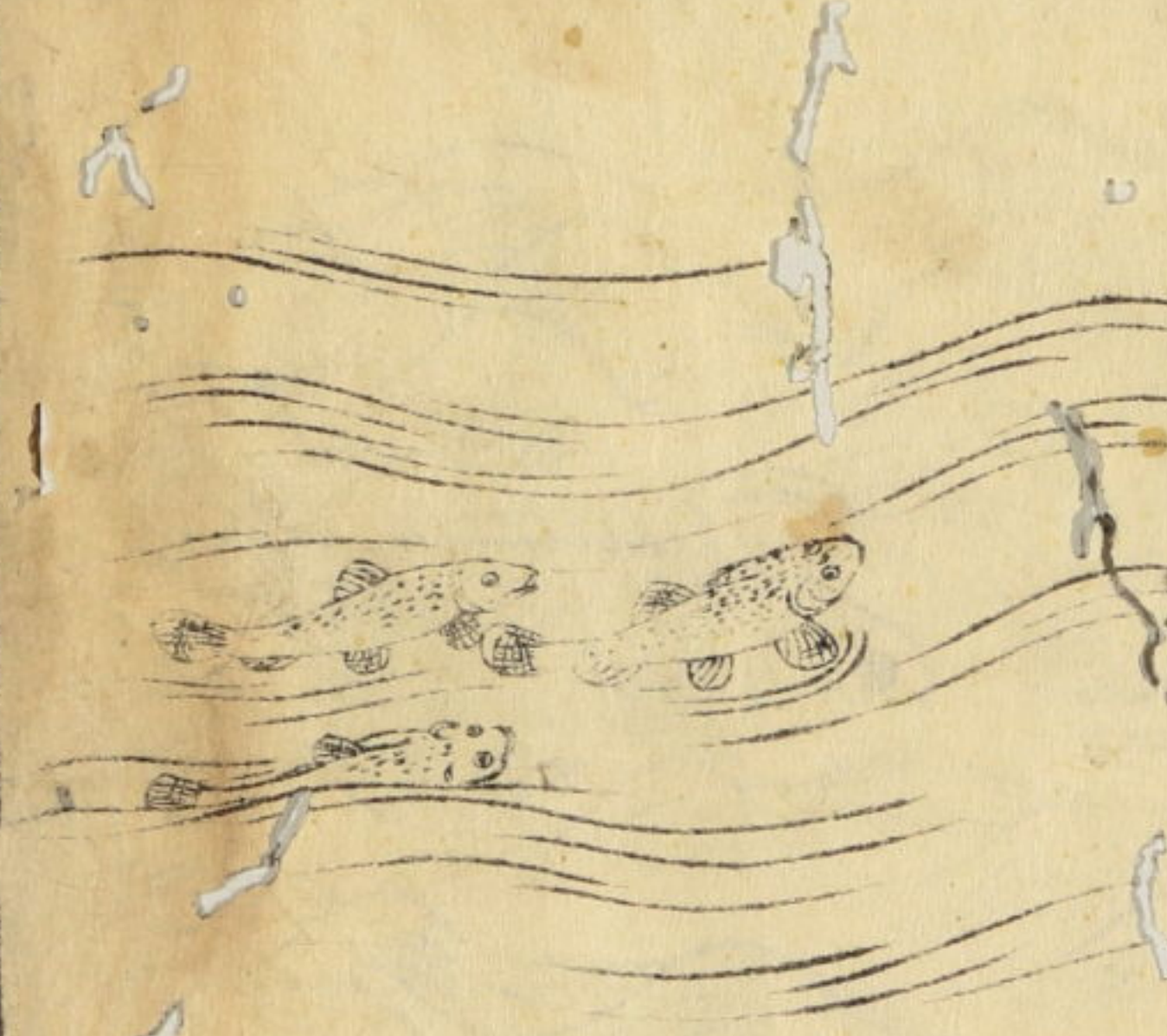
鱒魚マス

状ハ鰻
蒼
丈赤尾水
中の遊
向
水豚
の
属



鱒魚マス

その
海魚
小魚
或
の苗
とい
多



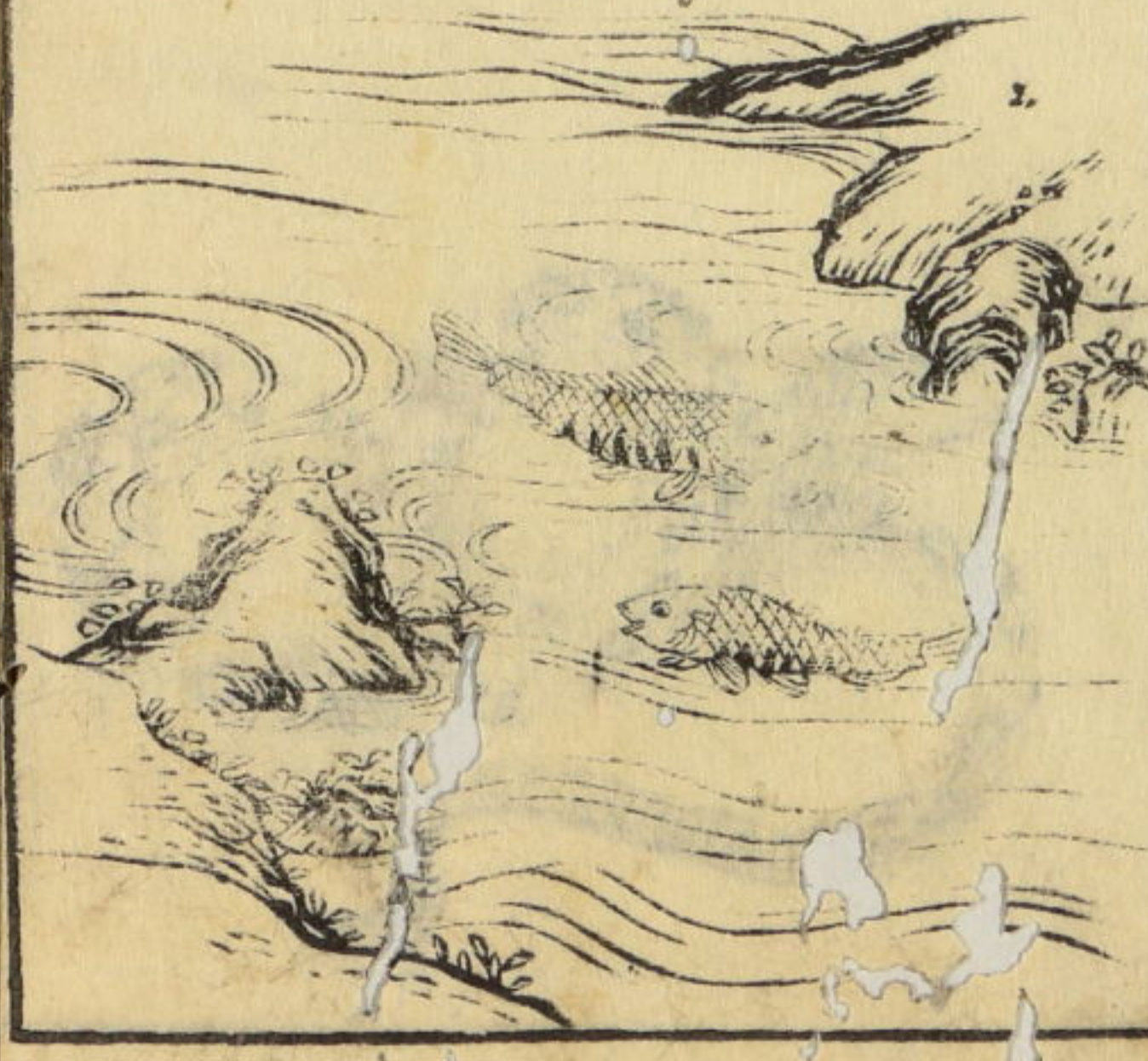
不フ鱒魚マス

溪洞の中
上生
長
形寸
裏
わ
と
一名山六工
山六千八工



吉加魚キカマス

質ハ鯉
細鱗
肉
美
魚
出川
賦



鱒魚マス

状鱒魚の
細鱗腹の
下
あ
と
東
四月



鱒魚マス

其
尺
白
武
入
入



方頭魚

方頭魚 鱈の如く
大いなりひ
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい

金線魚

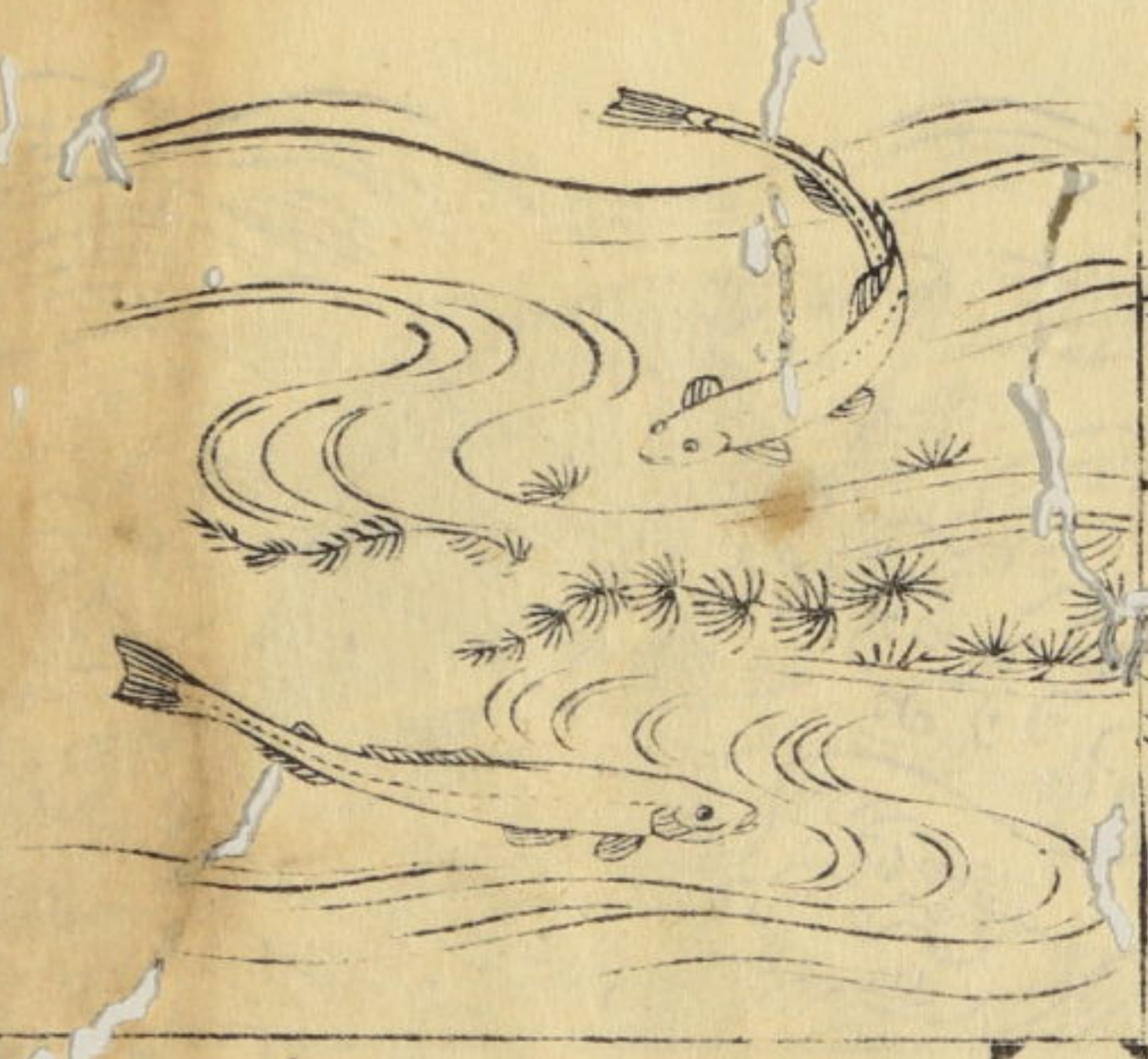
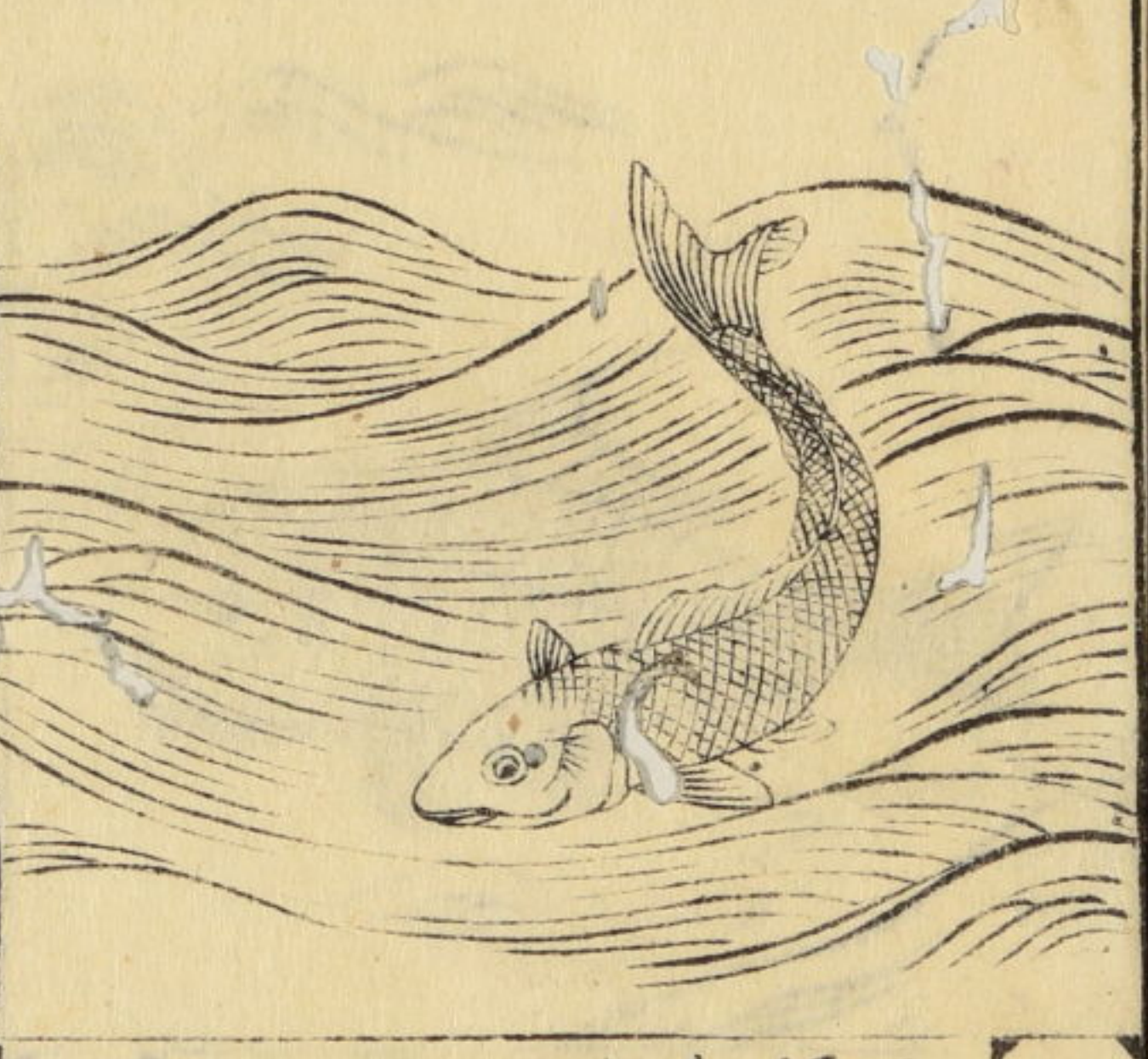
金線魚 鱈の如く
鱈の如く
細長く
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい

肋魚

肋魚 鱈の如く
骨あり
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい

玉竹魚

玉竹魚 鱈の如く
身圓
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい



狀ハ如紫

狀ハ如紫
魚の如く
長入り
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい

火焼鱈

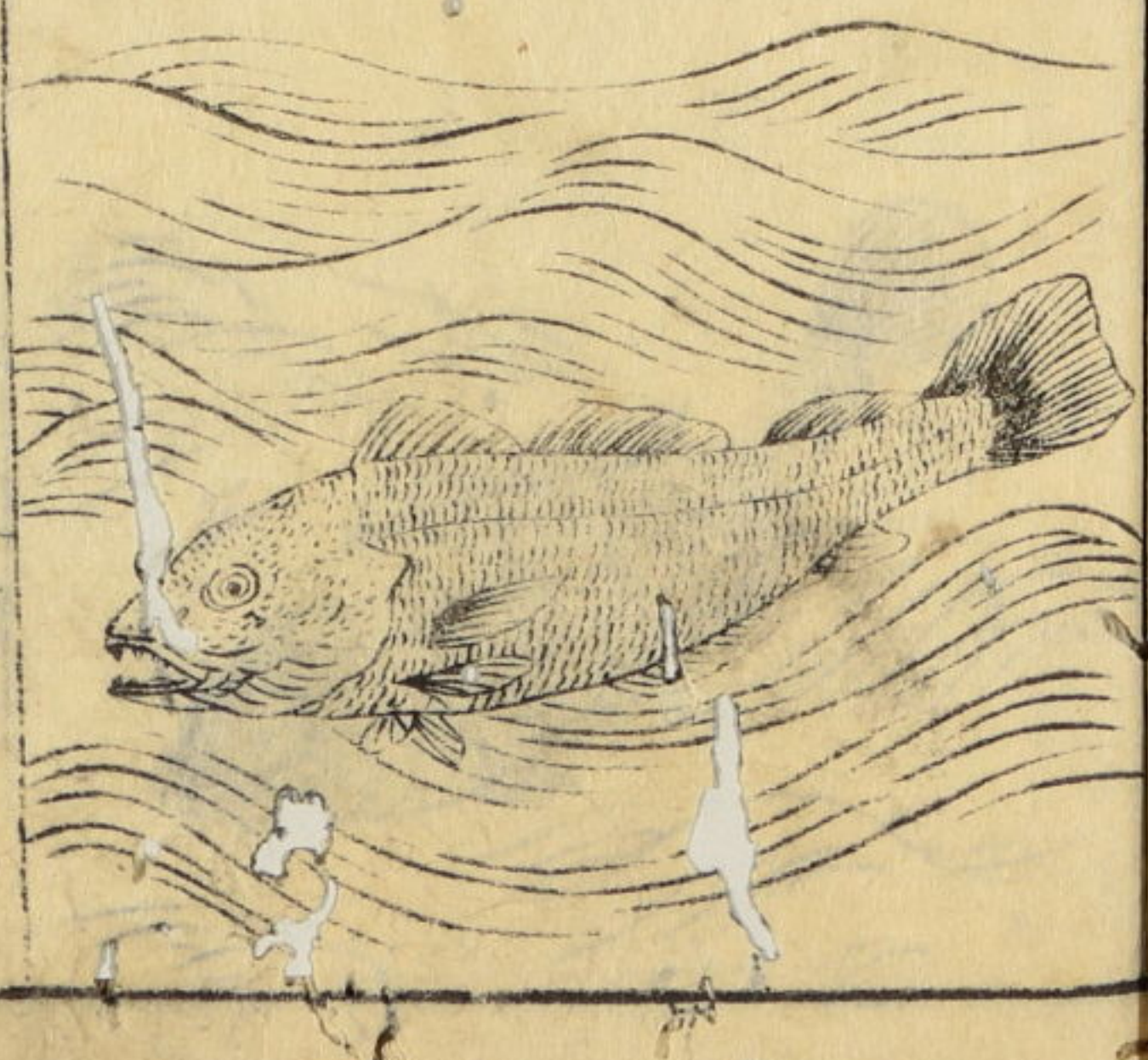
火焼鱈 鱈の如く
鱈の如く
細長く
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい

大口魚

大口魚 鱈の如く
鱈の如く
細長く
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい

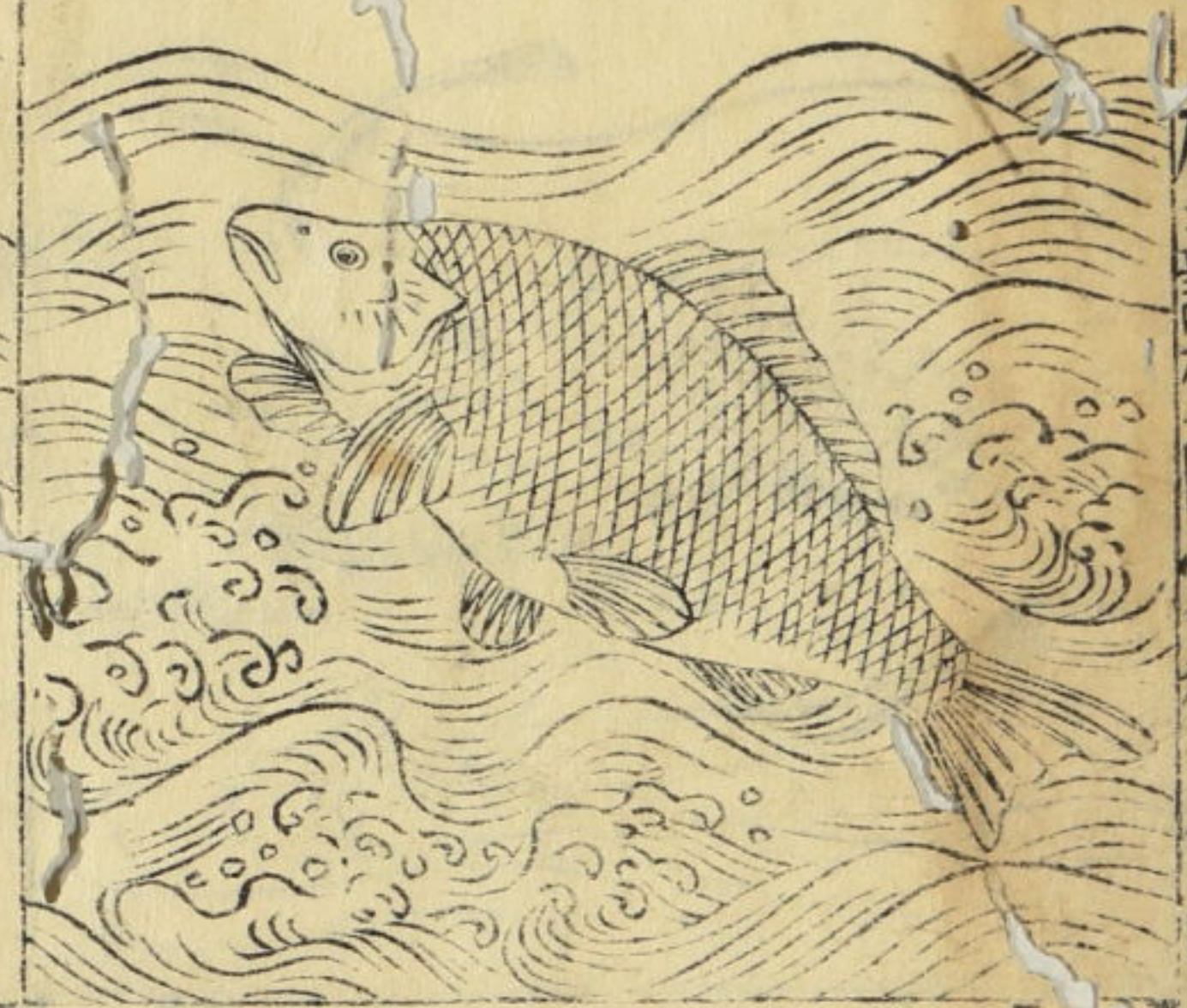
竹魚

竹魚 鱈の如く
身圓
さいの骨
丸い尾
に岐あり
和名あり
とい



鱖魚

狀鱖の如
あて頭
小形扁
片に細
鱗腹肥の
白
一名連魚
といふ



鱖魚

こま狀鯉
似てま
こ家大
なり目乃
旁に骨
ひと名は
を鼻ア
のこ



鞋底魚

狀牛脾乃
又人
の鞋底の
細鱗此魚白
色し
一斤の
魚目んを
あり
俗に
の



鰯魚

飛ハ馬鞭
尾に波
さわく
肉白
或ハ
心も
鱗
鱗



鱖魚

新
似て
鱗
大し
鱗
細
十
十



黒頭魚

狀ハ
鱗子
大
二
一名北斗



華臍魚

斗の如く
大
盤の如く
吳都賦曰
琵琶魚
而形似琵琶
和
名ハ



鱖魚

狀長く体
尾
お
魚
又あり
懐
舌あり
尾



丹魚 魚

形 鱗の
似て小
三と
一ふ二後
改
俾魚あり



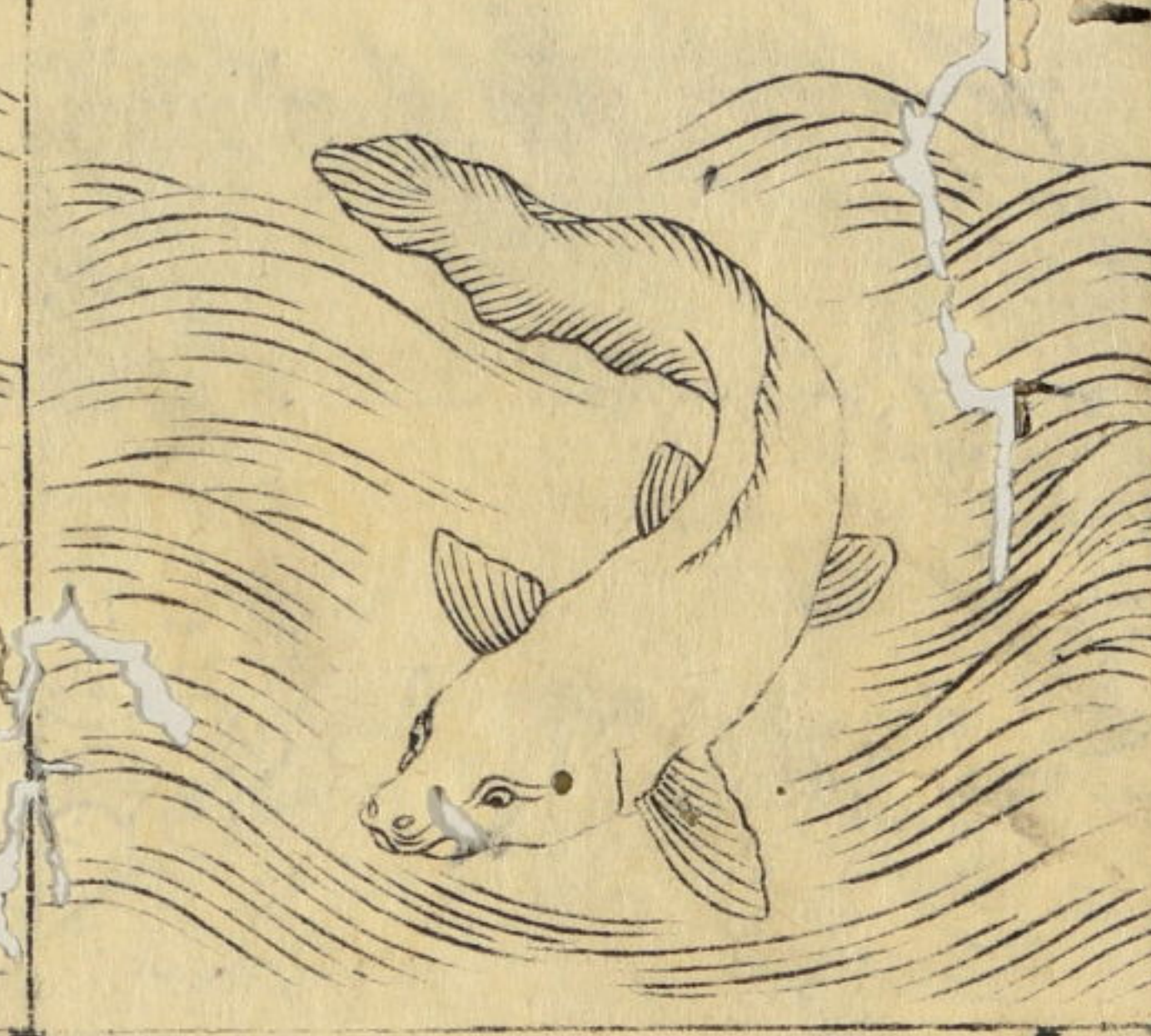
鱗魚

その状 鱗
似て小
三と
一ふ二後
改
俾魚あり



牛魚

状 鱗の
似て小
三と
一ふ二後
改
俾魚あり



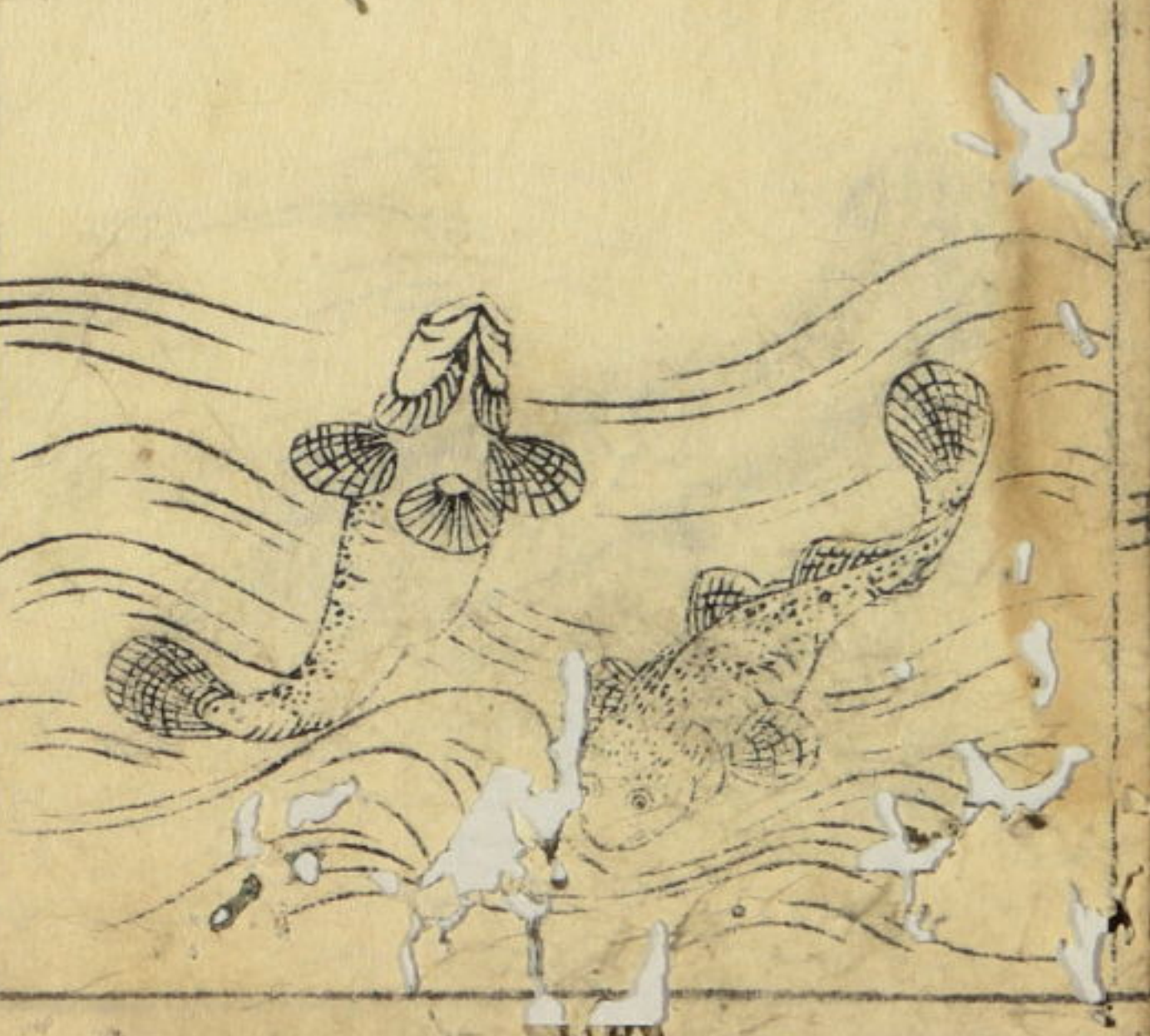
龍魚

形 鱗の
似て小
三と
一ふ二後
改
俾魚あり



龍魚

形 鱗の
似て小
三と
一ふ二後
改
俾魚あり



彈塗

一名 蘭胡
形 小
似て短
大
長三五寸
潮退て干
百群とか
して



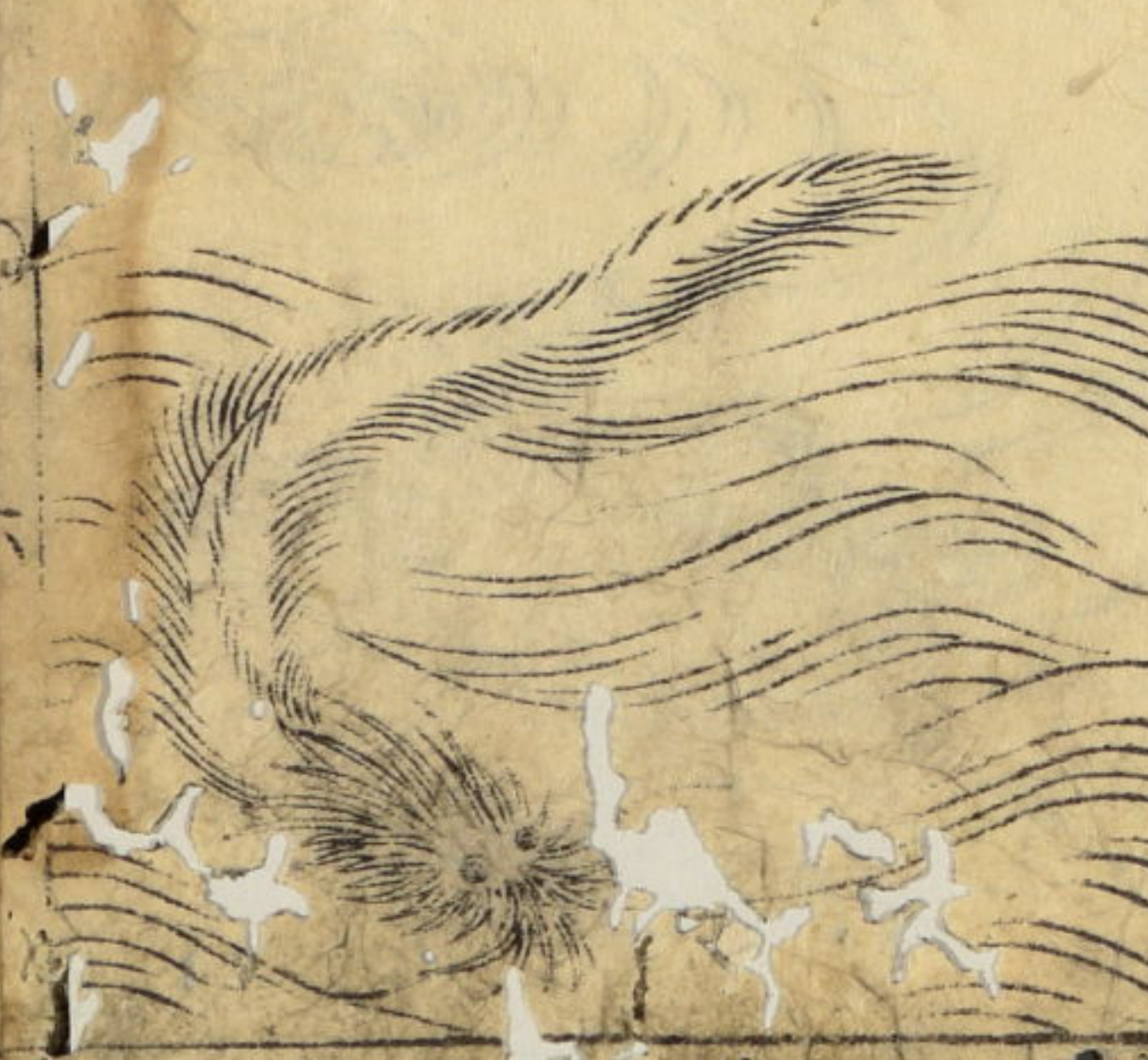
海薑

その
龍乃
鱗あり
足多
毒あり
和云
か



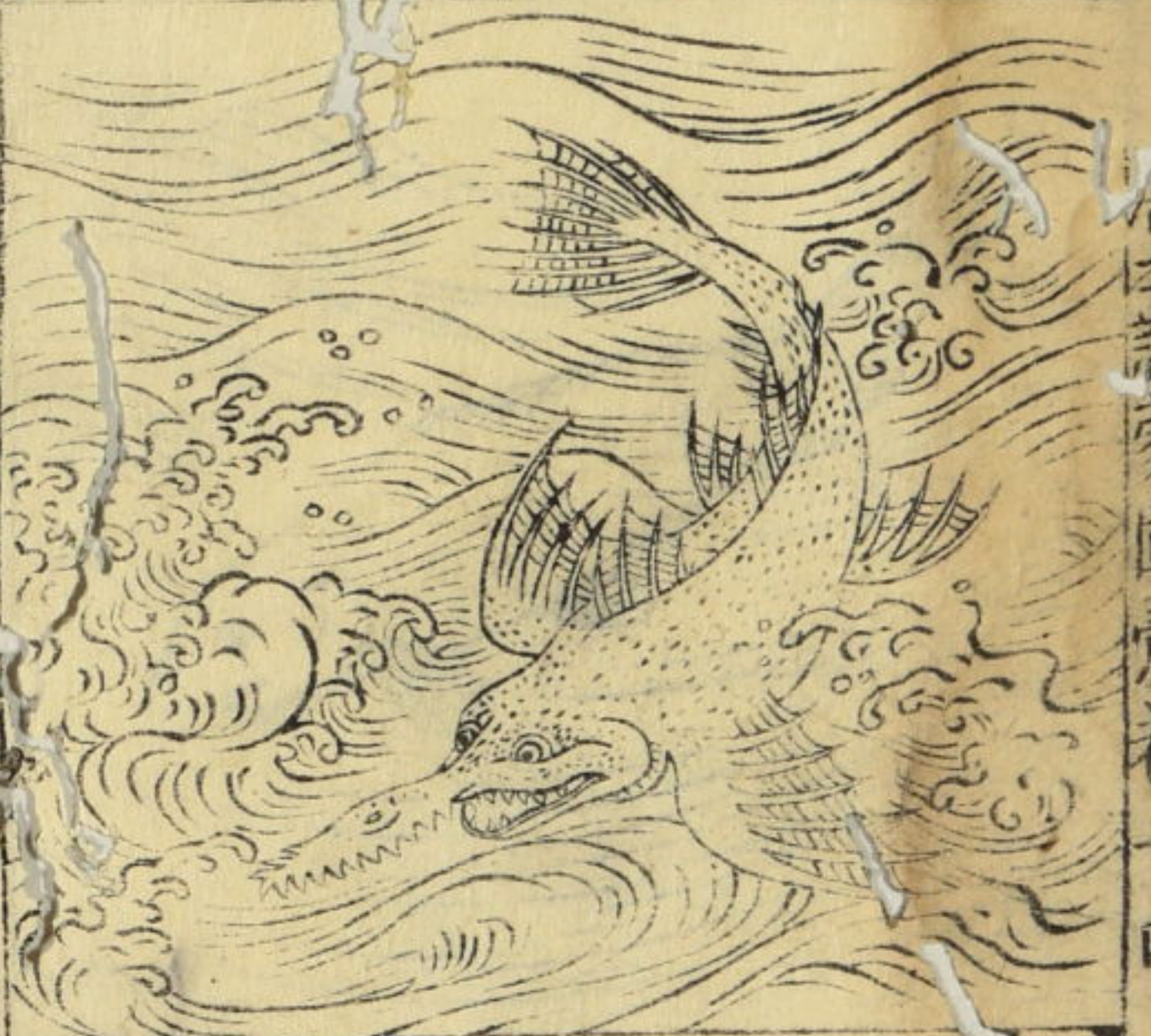
龍魚

形 鱗の
似て小
三と
一ふ二後
改
俾魚あり



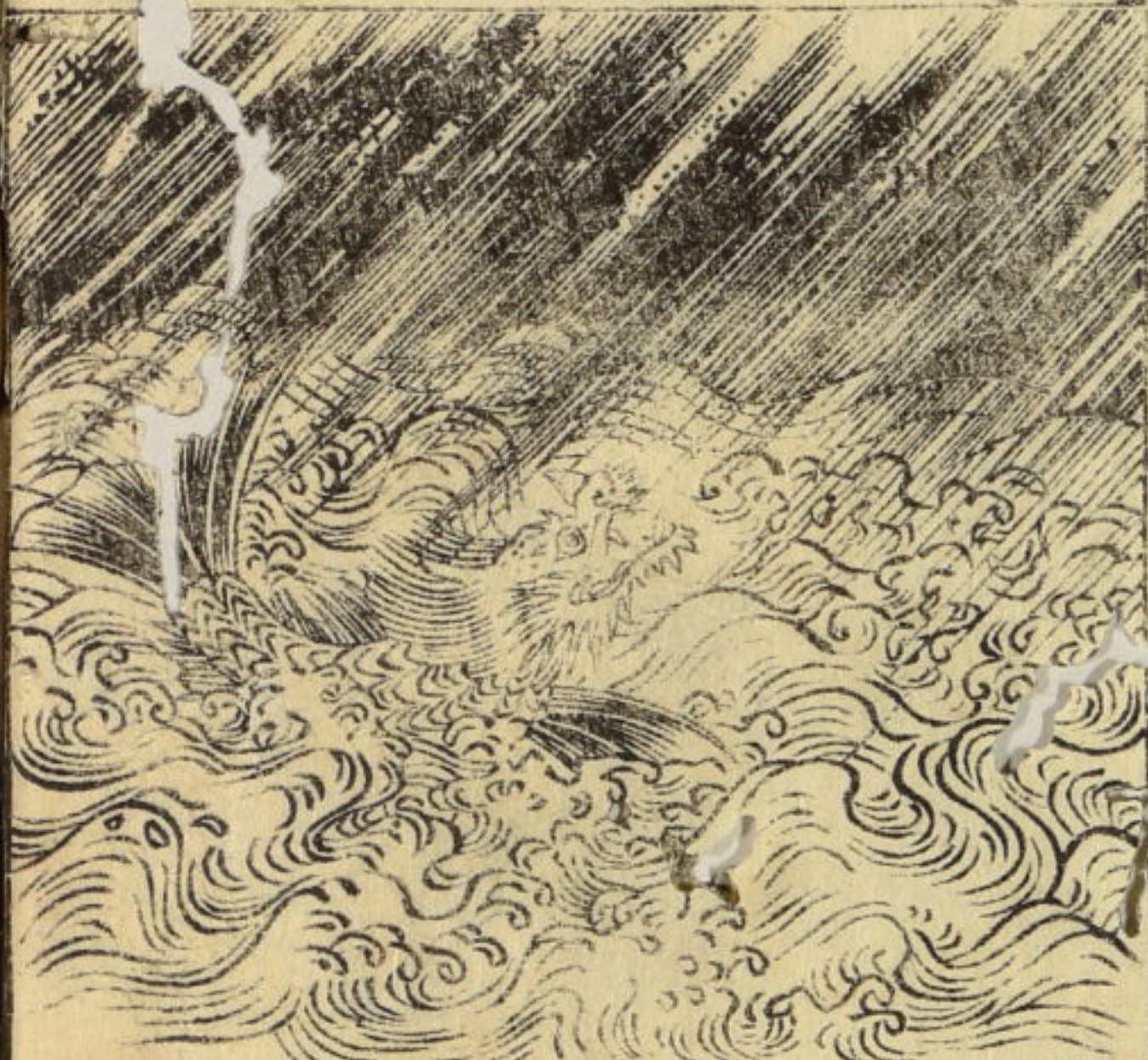
胡龜

そのまは
くは背
上は河
大なるもの
長一丈餘
小なるもの
三尺大を
鱗の



鵝尾

狀ハ龍
浪と激
内なるもの
屋上の瓦
儼と作
火災と厭
鳴物



蟾龜

跂踵山
玳瑁
交米あり
その甲を
碑の
負鼎と同
玳瑁の雌



玄龜

扭陽山北
怪水河
東注水中
玄龜多
其狀鳥
首魁の尾
音破水の
卒の



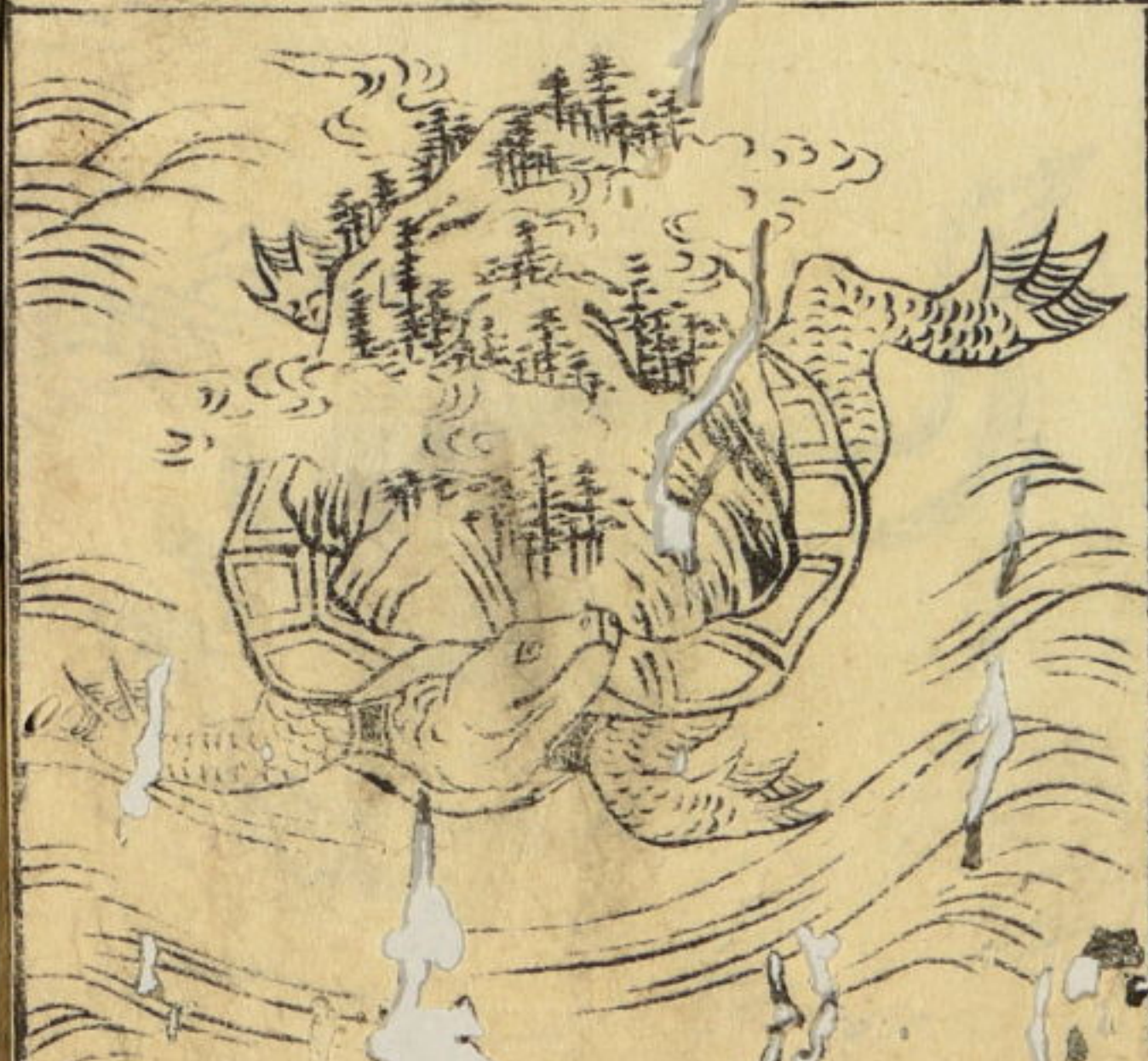
中龜

夏の禹王水
と治王の時
洛水より
龜出ると
其甲より
文ありて字
畫の如
禹見ると
知て九龍
の湯乳し



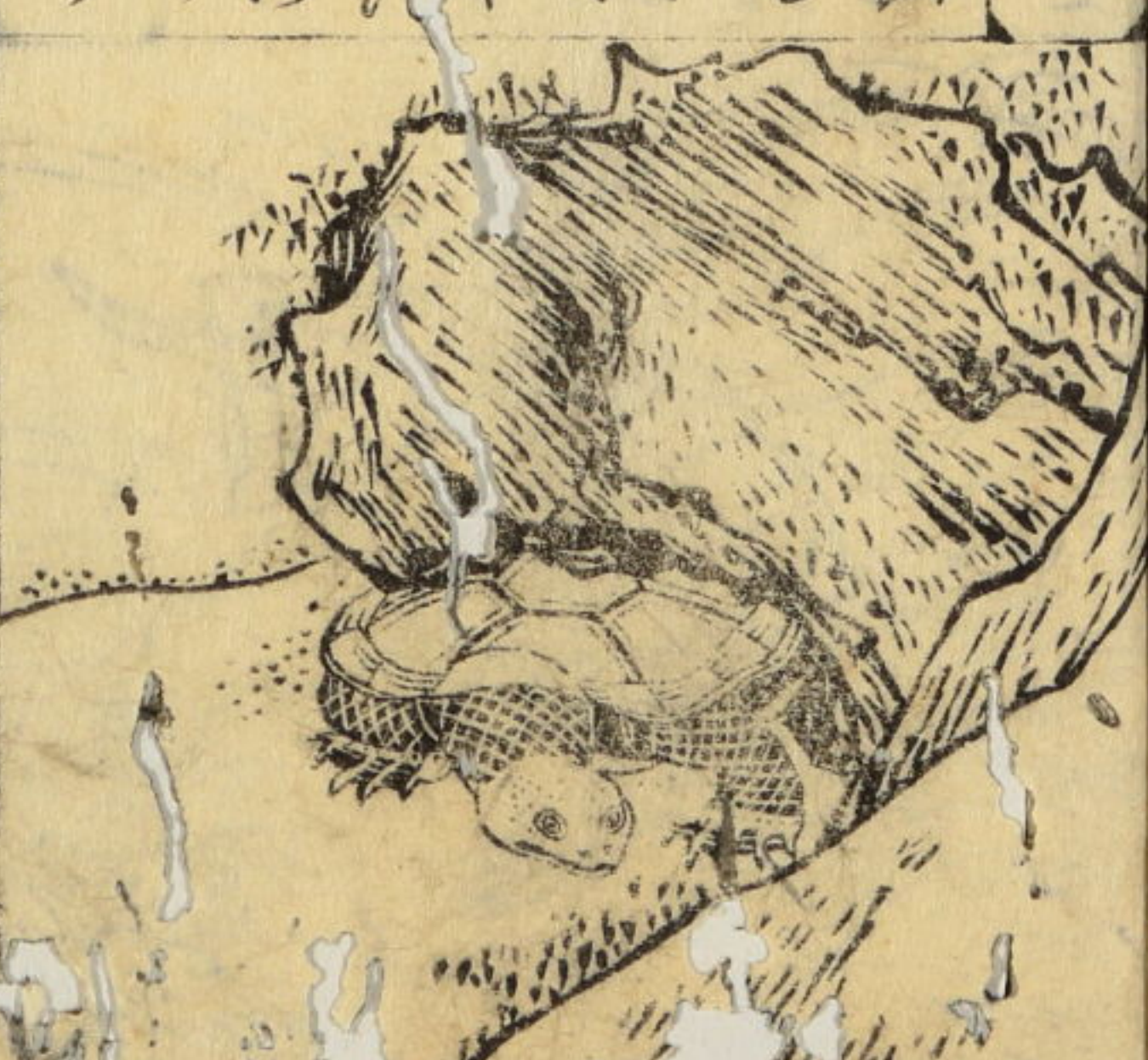
黿

曰く海
の東代
員嶠方壺
瀛洲蓬萊
の五山あり
巨鼈首と
仰ぐればと送
子の伝とい



瘡龜

いん海
石下よ
そのり
偏頭大嘴
老瘡
或は病人乃
外に起る
掛る



攝龜

一名鴛龜
腹
中心横
能自ら開
圓川好
地と合
故に甲蛇
龜とい



無三三六

珠鼈

葛山澤
甲に多く
其狀六月
あり六月
珠あり
酸一食
時氣と避

龜鼈

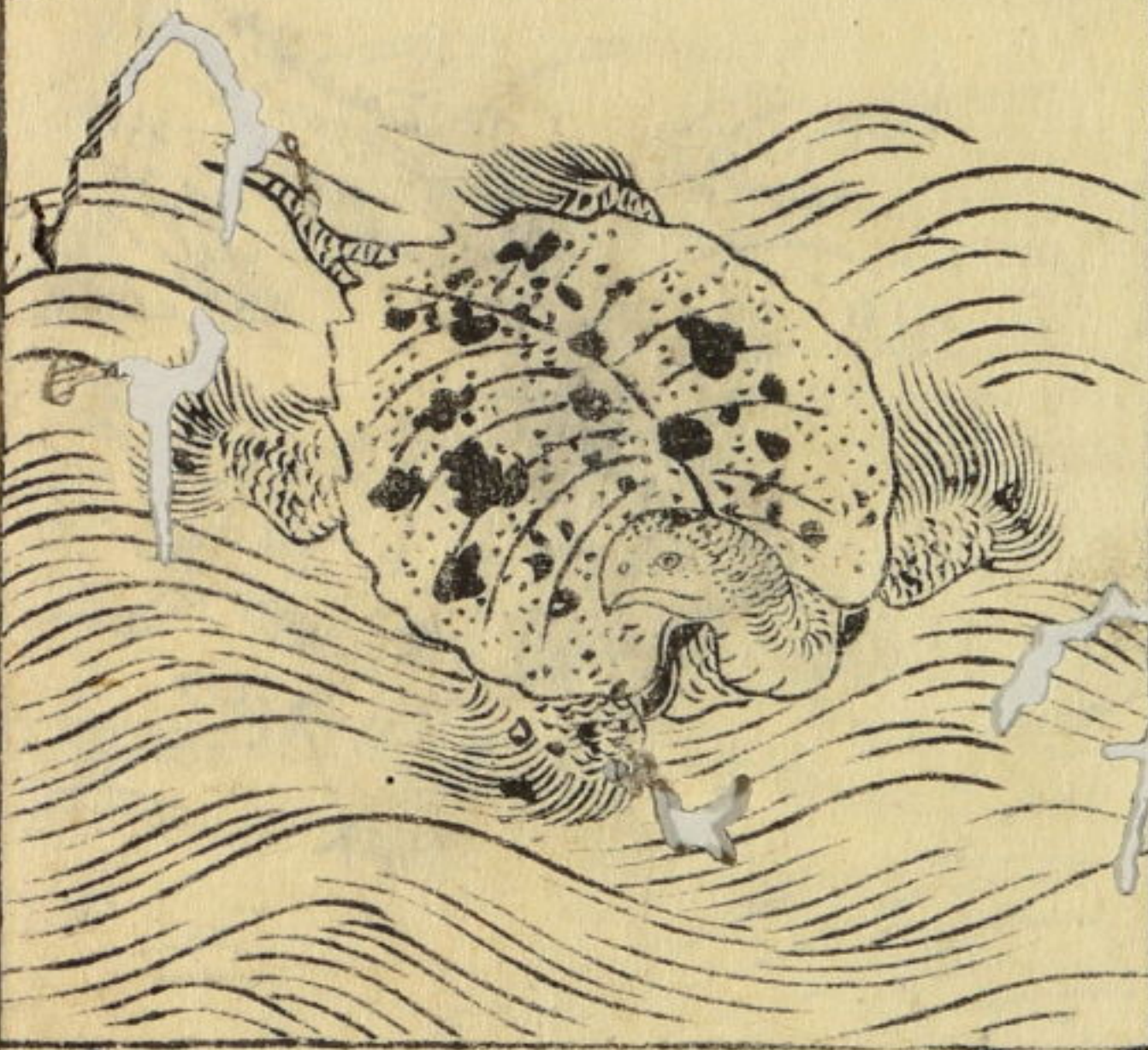
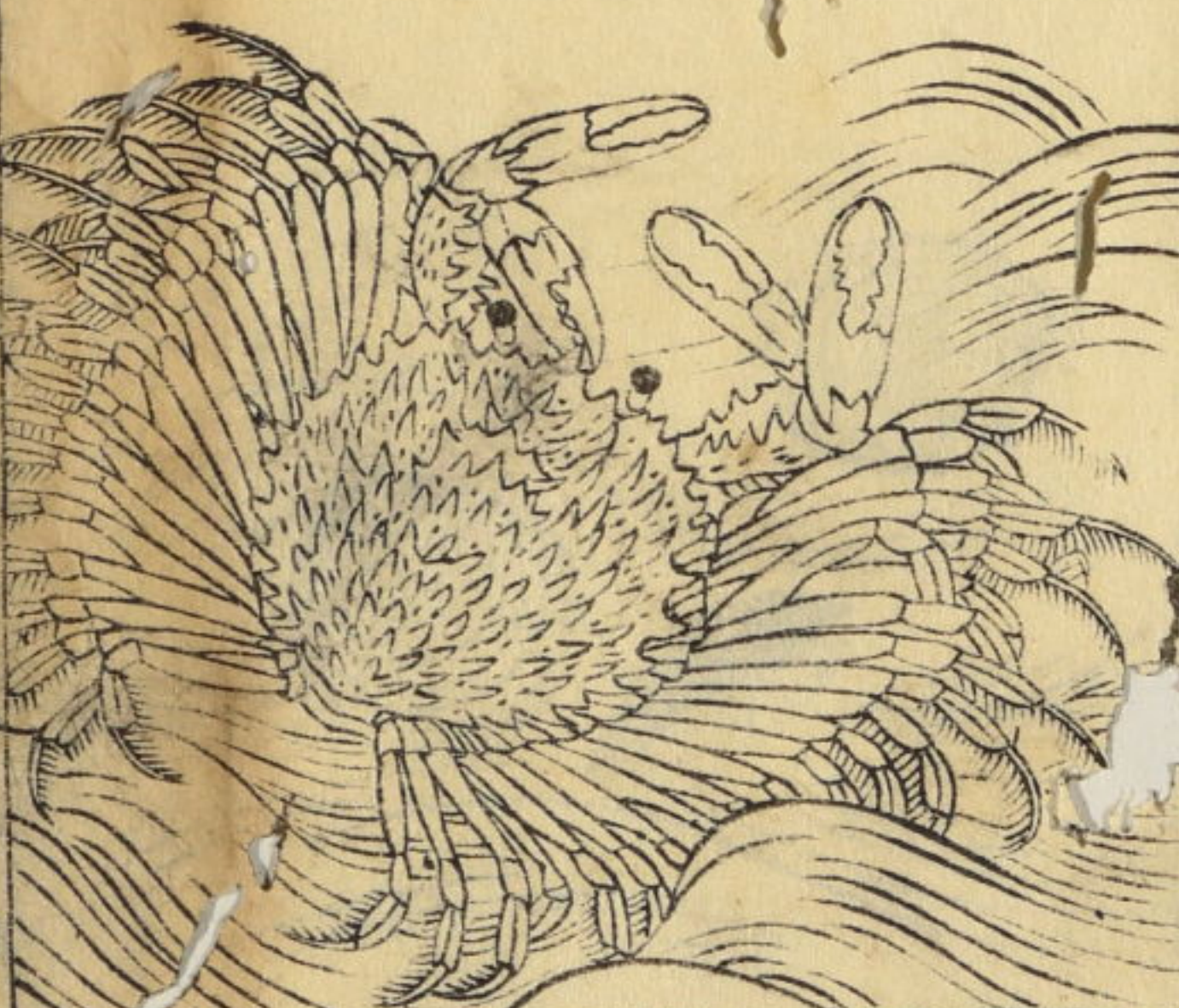
その形を
のく大さ
甲に玉珠
文あり
玳瑁のし
玳瑁のし
玳瑁のし

蟹

その形を
あてその
蟹一川と
大は一川
小は一川
蟹の形小
蟹の形小
蟹の形小

百足蟹

善苑國
百足蟹
その名九
ふして蟹
四つあり
て膠と
鳥喙膠
草木子



唐土別家區言卷十四

つらつら
つらつら
足を以て
りり吳興
郡陽羨
縣君山
池あり
の蟹多

元龜

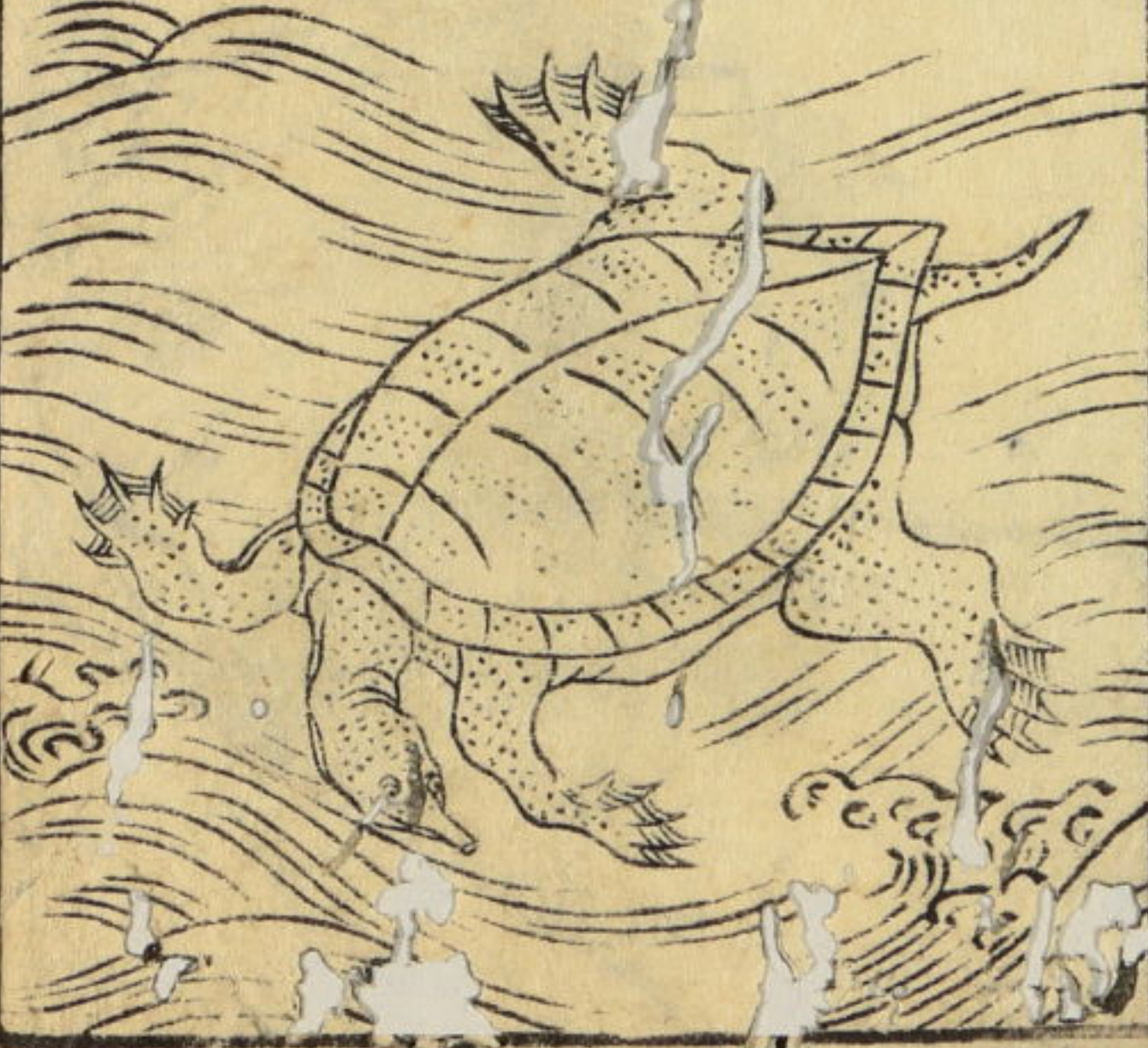
狀鼈
似て最大
鱗あり
鼈と雌
その卵と
鴨の卵の

鬼蟹

形つる蟹
あて甲
人面の状
わらわら
和云々
カニギヨウ子
蟹

螃蜞

その形を
毛あり波
沈田港
故毒あり
招潮子
小蟹
穴とて
のい
つらつら



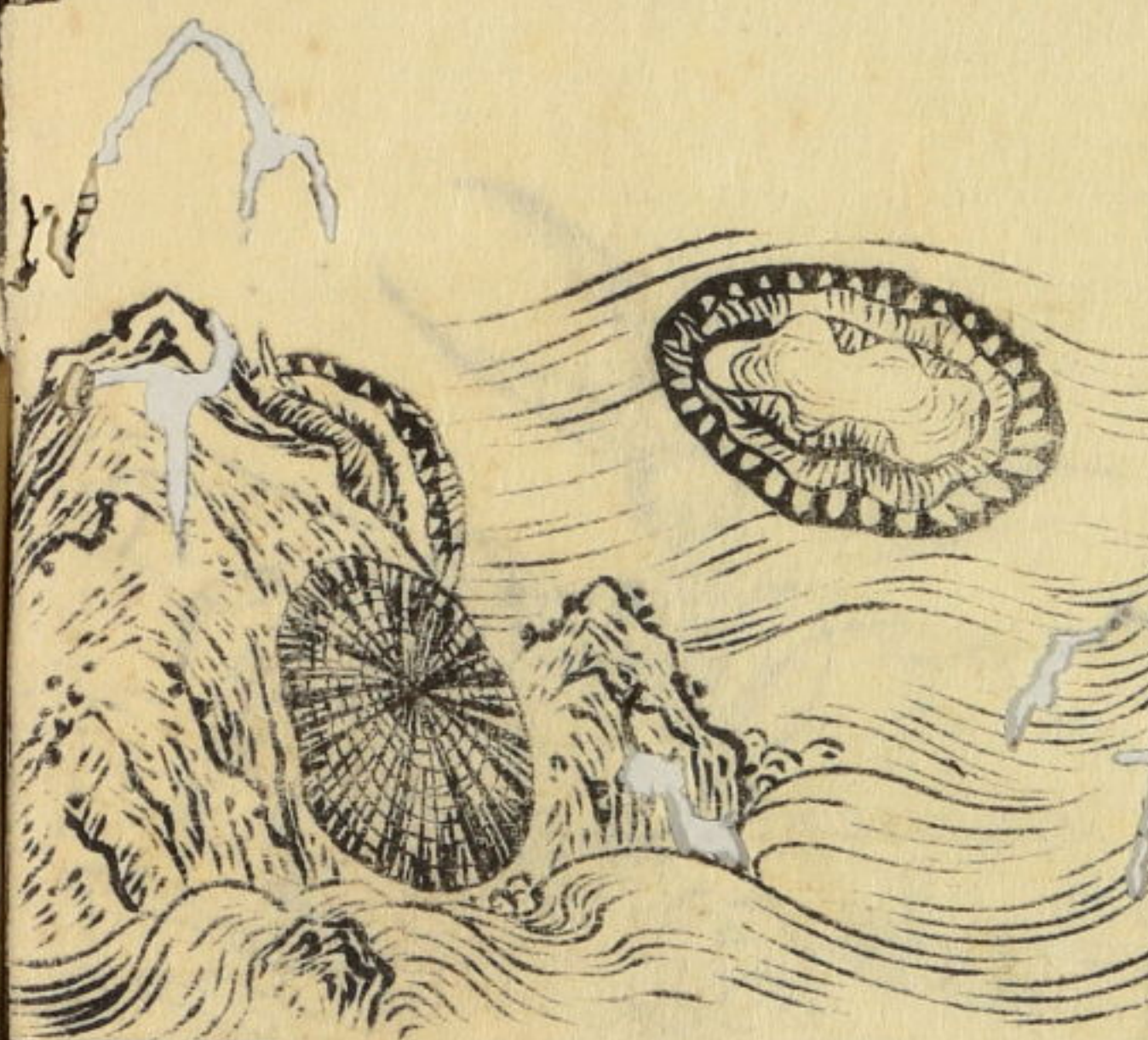
海鏡

此鏡一斤の
の肉一斤の
白く一斤の
群の類之
○和子のみ
解目貝の
えをたれ



海石

海石の石
て生れ肉
の飛膠
似る味也
又



鯉

鯉と海
苗公と云ふ
淮南子曰法
令と托れ
虫類多し
今とつり今
令鼓と以
てとらふし



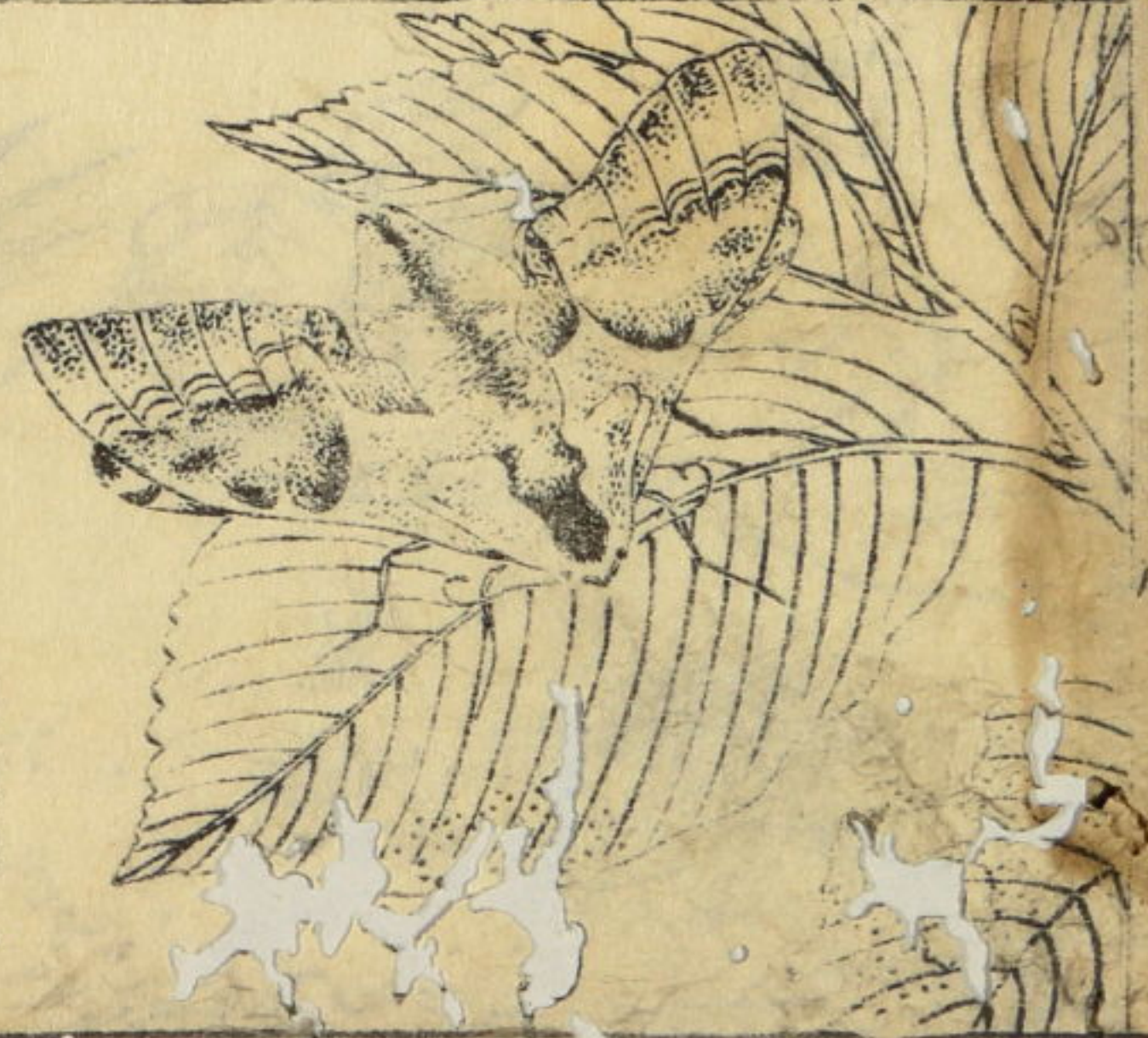
菊虎

菊の形
菊の苗を
合せて
菊の宿根
より化す
といふ
小虫



蝦蟇

一名ハ
子大
七
翼あり外
翅
しく斑點
わ内翅ハ
又



蜩

その
首方
廣く冠
蝉
しく鳴
名ハ
名ハ寧母



水鼈

のハ水鼈
みて長尾
なり節
ありて
大なるもの
人とせし
死に毒
也



蟻

長三寸其
色黒
と甲あり
口角者
氣といふ
人と



唐土物産圖景卷十四

水虎

狀三四成の
小虎の
甲の
沙の
影の
と水
勝と
人
見



此虎
生
配
故
と
面
と
の



無三祖六法之傳。分不能以通神矣。始
今所筆抹未定神由木紐。昭君良惟
之病親者宜怒焉

浪華 畫者 橘有稅



多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者
所宜潛心也。此書就天地人物圖之說之。裁
為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所
収載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆
貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭。
卷尾云。享保己亥。攝江穗積。以貫伊助甫跋。



享保己亥歲
孟陽書且 書肆

大坂安堂寺町心齋橋
大野木市兵衛
江戸日本橋南一丁目
須原茂兵衛

